

総合型選抜
公募型学校推薦選抜
英 公募型学校推薦選抜
語数 公募型学校推薦選抜
学 公募型学校推薦選抜
生 公募型学校推薦選抜
物 公募型学校推薦選抜
化 公募型学校推薦選抜
学 公募型学校推薦選抜
国 公募型学校推薦選抜
語 公募型学校推薦選抜
一般選抜
一般選抜英語
一般選抜日本史
一般選抜世界史
一般選抜生物
一般選抜化学
一般選抜数学
一般選抜国語

国 語

〈出題傾向〉

（現代文）

二五〇〇～四五〇〇字程度の文章が出題されており、三〇〇〇字程度の文章が多い。二〇二四年度の出題文は、全て評論文だった。出題文のテーマは、歴史・哲学・文学・科学に関するものなどで、一九八〇～二〇二〇年代に書かれた文章が使われている。出題文は論理的な読解力を求める内容だが、難解なものはない。

個々の設問内容に関して、漢字問題は例年必出で、いずれの日程においても、五～十一問ほどが出題されている。大半の日程では、語句の意味を問う問題も出題され、単語・熟語・慣用表現について問われている。特に難解な語句は問われていないが、誤用されやすい表現が問われることもあり、選択肢の中から正確な意味を選ぶ力が必要である。また、接続語・語句・脱落文を空欄に補充する問題など、本文の文脈、論理を精緻に読み取らせる問題が多く出題された。

さらに、傍線部の意味・内容を問う問題が全ての日程で出題されている。また、傍線部における筆者の考えを問う問題や本文との内容合致を問う問題など、本文全体の正確な内容の把握が要求される問題も出題される傾向にある。本文全体の把握が必要とされる問題では、他の設問で問われた筆者の主張がさらに発展的に問われたりする場合がある。一つの設問の間違いが他の設問に波及して、得点を大きく落とす可能性があるので、設問同士に関連がありそうな場合は注意して解くようにしよう。

また、二〇二四年度は、単語や語句の抜き出し問題の出題はなかった。文章で解答する記述問題は、二〇二二年度・二〇二三年度に引き続き、二〇二四年度も出題がなかった。

その他、文学史の問題が二〇二四年度では二日程で出題された。

（古文）

二〇二二年度は、平安時代の長編物語『源氏物語』、江戸時代中期の軍記物語『前々太平記』、江戸時代後期の『亮々草紙』、平安時代末期の成立とされる説話集『唐物語』から出題された。また、二〇二三年度は、平安時代の長編物語『源氏物語』、江戸時代の仮名草子『女郎花物語』、江戸時代の歌集『としなみ草』、平安時代の説話集『今昔物語集』から出題されており、両年度ともに、受験生にとってあまり馴染みのない作品からの出題が見られた。

二〇二四年度は、平安時代の長編物語『夜寝覚物語』、平安時代の歌物語『平中物語』、江戸時代の狂言論書『わらんべ草』、江戸時代の書簡集『許六宛去来書簡』から出題されており、あまり知名度の低い古典からの出題が多かった。

本文量については、二〇二三年度は、前期A方式・B方式が九〇〇～一二〇〇字程度であり、後期が一七〇〇字程度であったが、二〇二四年度は、前期A方式・B方式が九〇〇～一五〇〇字程度であり、後期が五〇〇字程度であった。二〇二三年度は前期B方式のみで和歌を含む文章から出題されたが、二〇二四年度では、前期A方式とB方式で和歌を含む文章が、後期で俳句を含む文章が出題された。設問数は、二〇二二年度・二〇二三年度と大きな違いはなく、八～十問であった。設問内容は、現代語訳、傍線部の内容説明、空欄補充、内容合致などの読解力を測定する設問を中心に、古語の意味、用言・助動詞の文法的知識を問う設問もほとんどの日程で出題されている。また、文学史などの基本的な知識を問う設問も出題されている。

総じて、本文と設問のバランスのとれた出題内容であり、バラエティーに富んだ設問構成である。解答するにあたって、余裕がある試験時間とは言えないので、時間配分には十分注意したい。

〈学習対策〉

（現代文）

上記の傾向分析からうかがえるように、本文の部分的理解だけでなく、本文全体の内容が把握できているかも問われるのが本試験の特徴である。出題形式に惑わされず、大学側が受験生に求めている学力は、国語力の基盤である「語彙力」と、それを基にした「読解力」であることを押さえておこう。

まず、漢字問題の出題数が多く、必ず出題されるため、日々の学習の中で漢字の書き取り・読み取りの訓練を行う習慣をつけよう。特に、漢字問題では同音異義の熟語の区別が大切である。意味のわからない熟語に出会ったときに、すぐに辞書で意味を調べ、同音異義語を区別しよう。また、漢字を使いこなすことができるようになるためには、単に「書ける・読める」だけでは不十分で、意味を把握しておく必要がある。さらに、慣用表現についても、文章の中で、意味のわからないものに出会ったら、必ず辞書を引いて正しい意味を確認しておこう。このように、「調べて覚える」学習姿勢を意識的に確立することが大切である。こうして語彙力を身につけておくと、語句の空欄補充問題や脱文補充問題を解く際に役立つだろう。

次に、文章の「読解」では、本文中の論理関係を把握するために、接続語・指示語・構文などの文法を理解しておくことが基本となる。基礎的な問題集や過去問の文章を使い、接続語や指示語によって、文と文、あるいは段落と段落がどのような関係になっているかを意識しながら読む練習を行おう。こうした学習を積み重ねて、文脈を把握する力をつけることができる。

また、問題を解く際、傍線部が本文のどの部分と関連しているのか、あるいは、選択肢のどの部分が本文のどこと関連しているのかなど、文章と文章の対応関係を常に意識し、それを手がかりにして問題を解いていくことを意識しよう。

（古文）

有名でない出典からも出題されることがあるため、古文を正確に読解する力が必要である。また、古語・文法の知識や古典常識などがある程度インプットしておかないと、古文の読解は難しい。

二〇二二年度・二〇二三年度に引き続き、二〇二四年度も和歌に関する設問があった。その対策のため、和歌の読解に不可欠な縁語・枕詞・掛詞などの修辞を、しっかり理解しておこう。また、二〇二四年度は俳句についての出題もあり、松尾芭蕉とその主要な弟子（向井去来・宝井其角）など、俳諧についての予備知識があると解きやすい問題であった。

本文中の和歌や俳句に関連する文学史の問題が出題されることもあるため、日頃から有名な和歌や俳句、歌集や句集について、概要を把握しておくことが望ましい。また、有名な出典について、年代やジャンルが同じ選択肢を選ばせるような問題は頻出のため、国語便覧などを用いて知識を整理しておく、文学史の問題を確実に得点できるだろう。

●正確な読解力養成のために

①古語の理解…動詞・形容詞などの用言は、助動詞と組み合わせで現れた場合でもすぐに意味が把握できるようにしよう。また、「現代と意味の異なる語」や「複数の意味を持つ語」の二種類は特に出題されやすいので注意する。現代と意味の異なる語については、辞書の意味を確実に暗記しておくことが必須である。複数の意味を持つ語が出題されるときは、文脈に適した意味を選んで答える力が求められる。辞書の意味を丸暗記するのではなく、語の中心的な意味や由来を理解しておき、文脈に応じて判断できるようにしておこう。

②文法的知識の定着…助動詞や助詞の用法、意味・用法の識別などは必出なので、こうした問題で失点しないように、しっかり学習をしておきたい。まず、古典文法の問題集を一冊解いて理解が不十分な苦手分野を明らかにしよう。そして、苦手分野の知識を繰り返し復習して、得点源に変えよう。

●記述対策もしておこう

記述式設問の出題は、二〇二四年度にはなかったが、過去に出題されていた。記述式設問が復活したときに備えて、問題集や参考書で記述式設問にふれ、実際に解答を書いて慣れておこう。

そのとき、模範解答の着眼点及び解答作成の手順を確認しておくことが大切である。

また、時代が異なると古文の文体も大きく異なる。どの時代が出題されても戸惑わないように、中古に限らず中世や近世の時代の作品にもふれておくとういだろう。

〈出題のねらい等〉

全体を通して

前期A方式・前期B方式・後期、いずれも国語の基礎学力を試す問題で、すべて選択問題となります（記述問題はありません）。

現代文の前半では、漢字の識別（同じ漢字が使用されている語句を選択）や読み方、故事成語を含む語句の意味、接続詞や副詞の空欄補充といった、基礎的な語彙力に関する問題を出しています。ふだんの読書などを通して、大学生となるにふさわしい語彙を身に付けているかを試みる意図です。

また、それなりの長さを持った文章中の語句を問うていますので、たんに「語句を知っている」だけではなく、文脈に即した適切な解答を選ぶことができるかがポイントとなります。接続詞や副詞の空欄補充問題が、文脈を理解せずに解くことができないのはもちろんですが、それ以外の問題も、前後の語句との呼応や文脈を踏まえ、選択肢を絞り込んでいく必要があります。

後半では、文章の一部分、あるいは全体の趣旨を理解できているかを確認するための問題を出しています。このような読解問題を答えるに当たっては、「だいたいこんな感じ」と大雑把に文意を捉えるのではなく、本文と問題文を精読し、記述を正確に理解することが肝心となります。文脈を踏まえてことばを理解し、文章の述べるところを正確に把握する力は、どの学部・学科で学ぶにあたっても必要不可欠なものです。

古文に関しては、基本語彙、文法（構文理解を含む）、文意の理解に関する問題が中心となります。問題文は平安時代から江戸時代までと多様ですが、各設問は高等学校で学ぶ範囲に即したものとなっており、ふだんの学力が試されます。文脈や語句の呼応をよく検討しないと選択肢を絞り込んで解答できない点は、現代文と異なりません。文章を読解する力が肝心となります。

古典語・古典文法は、現代語・現代語文法ほどに、あらゆる学部・学科で学ぶにあたって即役立つという性質のものではありませんが、現代語・現代語文法の基盤となるものです。また、この国の歴史や文化を正しく理解するためには、その歴史や文化を語ることばを習得する必要があります。外国語でも同じことですが、訳に頼った借り物の知識ではなく、その時代のことばに触れ、習得してほしく思います。また、日本文化の理解を試みるため、古文・現代文とも、文学史の問題も出しています。

以下、正答率の低かった箇所を中心に、少し具体的に説明します。

前期A方式（1月29日）

㊦の現代文は、中世ヨーロッパのキリスト教社会における「寛容」の概念について論じたものです。正答率が3割以下の設問を中心に確認していくと、問一のBの正答は⑤ですが、②を選んだ人が5割を超えており、もっとも多かったです。「諸行」と理解した人が多かったのですが、この語は「この世の一切の事物・現象」の意ですから、文脈に合いません。「おこない、しわざ」の意である「所業（行）」が適切です。字音語は同音異義語が非常に多いので、その文脈にあった、適切な語句を選択する必要があります。次いでDも正答率が3割強でした。正答は③ですが、④を選んだ人も比較的多かったです。④は「才媛」で、問題の「シュウエン（周縁）」の候補とはなりにくいと思いますから、問題と選択肢のいずれかの（あるいはいずれも）意味の把握が難しかったのかと思います。

問六の正答率は、3割以上ではありましたが、読解問題の中ではもっとも誤答が多かったです。正答の②を選んだ人が最多でしたが、⑤を選んだ人がこれに次ぎました。⑤は、前半は本文の主旨に合致しますが、「個人の能力」云々以降の後半が折り合いません。本文では「個人の徳」を問題にしています。「徳」は資質、性質を意味しますので、②の「個人の資質」がより適当となります。

問七は（1）（2）とも文学史問題ですが、いずれも正答率は2割台でした。（1）は、正答の③よりも①を選択した人の方がやや多かったです。①は三島由紀夫の代表作。他の選択肢も著名な作家の代表作ばかりです。（2）も正答の①よりも②を選択した人が

多かったですが、新思潮派は芥川龍之介や菊池寛等で、1950年代から作家活動を始めた遠藤周作とは大きく時代が異なります。

いずれも、国語便覧に目を通すなどして、知識を養うことで正答を選べる問題です。文学史の学習にも目を向けてください。

㊦の古文は『夜寝覚物語』の一節です。長篇からの部分引用ということで、本文だけを読むと情報が不足します。まずはリード文を熟読し、どのような場面かを理解してから取り組みましょう。

もっとも正答率が低かったのは問六のAで、正答（④）は1割強、半分以上の人が①を選んでいました。傍線部Aの次行に「後の位になしたてまつりても」ともあることから、「雲居」を「宮中」と理解した人が多かったのかと思います。また、「きこゆ」に「噂される」の意があることも判断に影響したでしょうか。ですが、「雲居」には文字どおり雲のあるところ、天上の意もありますし、ここの「きこゆ」は動詞「見入る」に後続するので補助動詞です。肝心なのはその「見入る」で、「心にとりつく」の意を持ちますので、④が正解となります。問六の他の問題は、Eは7割以上、力は若干低くそれでも4割近くの人が正解でしたが、残るオの正答率が2割弱でした。5割以上の人が⑤を選択していましたが、ここは反語に取らないと文脈が通りません。「どうして演奏なさらないことがあるだろうか（いやない）」という反語文は、言い換えれば「かならず演奏なさるであろう」となります。

次いで正答率が2割強と低かった問八ですが、姫君の「もの思ひ」が天人のことばに端を発するものであることは、問六のEに見える通りで、正答の候補は③～⑤に絞られます。そして、「残す手なく伝へたまふべき」と楽曲が伝授されたこと自体を反語で否定しているのですから、この中の④が正答となります。

前期A方式（1月30日）

㊦の現代文は裁判員制度に関する論述です。「国語」の問題として異例に感じるかもしれませんが、知識の幅を広げることは、大学の学びにおいて重要であると考えての出題です。

全体の正答率が6割を超えており、4割を切るような問題もそう多くありませんでした。問一の中では、比較的Bの正答率が低く、正答の②「靈魂」が約4割、対して④「根絶」も3割強と比較的拮抗していました。たしかにコンタンと読む語には「根端」もありますが、植物の根の先端の意で、あまり一般的な語ではなく文脈にも沿いません。「魂胆」という語自体が難しかったのでしょうか。問三は全体に正答率が高かったですが、㊦のみは4割以下でした。正解①と、②がほぼ拮抗していますが、この㊦を含む文は「これらに対して」から始まりますので、直前の文を受けているとわかります。その文では、「法技術」の必要性とともに、「固定的な裁判慣行」が存在する以上、「一般的な量刑理論」において市民の判断には「限界が付きまとう」と述べられています。「根拠がなくても判断できる」ではなく、素養、つまりは法律の専門家として身に付けた技術がなくても、と理解するのが適当です。問四の㊦も正答の①と⑥がほぼ同率でした。⑥が正答である㊦と見合わせると、㊦の前文では市民による司法改革の可能性を述べる一方、後文はその市民の技術的な限界を述べ、前文を部分的に否定していますから、「とはいえ」の方がより適切です。となると、㊦には①を入れるのが適当ということになります。「同じ記号は一度しか使えません」という但し書きのある問題は、判断が難しいものはひとまず置いて、補入しやすいものから埋めていくと選択肢が絞り込みやすいです。

文章読解の問題では問六が、正答の④と、①を選択した人が拮抗していましたが、①の「啓蒙」に関しては、本文1ページ4行目で「考えているとすれば」と仮定形で述べ、以下でも批判的です。では、啓蒙が目的ではないなら何が目的かというと、筆者は「権力への迎合」「市民の意欲が無力化される」と理解します。「本音が出た」と考えているのは筆者である点、注意してください。

最後の問八は正答の④以外に⑤を選んだ人も多かったですが、本文4ページの3行に「裁判員裁判において、市民が死刑制度についてどう考え、個々の死刑判断をどう考えるかは、文字通り裁判官と同じウェイトと力を持つ」とあって、⑤のように裁判員制度が勝るとは述べていません。④が適当ということになります。

総合型選抜	公募型学校推薦選抜	英	公募型学校推薦選抜	数	公募型学校推薦選抜	学	公募型学校推薦選抜	生	公募型学校推薦選抜	物	化	公募型学校推薦選抜	学	国	公募型学校推薦選抜	語	一般選抜	一般選抜英語	一般選抜日本史	一般選抜世界史	一般選抜生物	一般選抜化学	一般選抜数学	一般選抜国語
-------	-----------	---	-----------	---	-----------	---	-----------	---	-----------	---	---	-----------	---	---	-----------	---	------	--------	---------	---------	--------	--------	--------	--------

総合型選抜
公募型学校推薦選抜
英 公募型学校推薦選抜 語数
数 公募型学校推薦選抜 学 公募型学校推薦選抜 生 公募型学校推薦選抜 物 公募型学校推薦選抜 化 公募型学校推薦選抜 学 公募型学校推薦選抜 国 公募型学校推薦選抜 語 公募型学校推薦選抜
一般選抜
一般選抜英語
一般選抜日本史
一般選抜世界史
一般選抜生物
一般選抜化学
一般選抜数学
一般選抜国語

㊦の古文は『平中物語』は、『伊勢物語』などと同じく、「歌物語」と称される、和歌を中心に構成された短篇物語集です。

問五の正答は③ですが、①・②を選んだ人、特に①を解答した人が最も多く、②・③は拮抗していました。ですが、この二重傍線部Cを含む会話文の後に、「とぞ、この、来たる親族たばかりける」と、会話文を受ける引用の格助詞「と」が続き、「来たる親族」とあるので、③が正答です。

問六のアも正答の④を選んだ人が3割弱で、正答率は高かったです。①・⑤を選んだ人も多かったですが、「内裏」「宮中」という語に引かれたのではないかと思います。①・⑤とも、後半が「はるかに見ゆる人」の訳として適当ではありません。A方式（1/29）の古文の解説にも書いたとおり、「雲居」は必ずしも宮中などの意味ではなく、文字通りの意味である場合もあります。ウは⑤を選んだ人が6割近く、正答の④は1割5分程度でした。動詞「倦ず」は「いやになる」「うんざりする」といった意味の動詞です。

問十の甲は②・④・①・③・⑤の順で解答した人が多く、正答の③は1割強でした。『伊勢物語』と在原業平がセットであるように、『平中物語』と平貞文もセットです。

前期B方式

Iの必答現代文は『不思議の国のアリス』の、昭和初期の翻訳に関する解説で、文学史上の著名な作家も多く登場する文章です。全体に正答率は高かったですが、問一の中ではBが正答率4割弱と若干低めでした。「嫌疑」という表記が浮かびにくかったのでしょうか。問三の中では、 に の正答率が2割強と低めで、③を選んだ人が最も多く、②、正答の①と続けました。ここは直前に「脱落や断絶があるからこそ」とあり、かつ、「芥川が翻訳に携わっていたら」という仮定のことを述べていますので、過去を偲んでいるわけではなく、①が③に絞られます。そして、著者があり得ないことと知りつつも、その「もしも」を雄弁に語っているのですから、「無意味」も適当とは言えません。問五の甲も正答の④と、①が拮抗していましたが、「あやかる」の意味は④ですし、芥川にとって白秋が「憧れの人」であることは本文からも読み取れます。

問九の文学史問題も、正答の③と、④がほぼ拮抗していました。③は森鷗外代表作です。

IIの選択現代文は、西洋における「技術観」の変遷について論じた文章です。問一の中では、A、E、Fの3問の正答率が2割前後と低めでした。Aは正答の⑤と、④が概ね同じ程度の解答率でした。「機影」と「幾何学」の1字目はよく似た漢字ですので、誤認があったのかと思います。Eは③の「零落」を選択した人が5割以上ともっとも多く、正答の④の3倍以上でした。文脈から「零」の字が想起しやすかったのかと思います。Fの正答は①ですが、④・②・①の順で選択した人の方が多かった。④の「親近」は親しいというイメージから選ぶ人が多かったのかと思います。②の「謹直」に関しては、少し難しい語だったのでしょうか。

読解問題は正答率が高めで、もう一問だけ、正答率が2割弱であるのも語句問題の問二のeでした。正答は⑦ですが、⑧を選択した人が4割以上ともっとも多かった。⑧の「中でも」は「多くのものの中から特に」という意味の副詞ですが、この空欄が掛かる前段は「ペーコンは、このような実験こそが」から始まっており、実験のことを述べた文章ですから、後段の冒頭に「中でも実験は」と、取り立ての副詞を補入するのは適当ではありません。実験に関しての話題を転じていますので、⑦が適切となります。

Ⅲの選択古文は、リード文にもあるとおり、狂言の教授書となります。高等学校の教科書などに取り上げられることはまずない作品でしょうが、全体の正答率は7割以上と、比較的読解しやすい文章であったようです。

その中で正答率の低かったのは問二のbで、解答数は④・①・②の順でした。正答は①で正答率は2割5分ほどでした。4割弱の④を選択した人は、「人前だとあがってしまう」のような現代語を意識したのかもしれませんが、「あがる」には「のぼせる」の意味があります。後は、問八の 15が正答率5割弱と、比較的正

答率が低く、正答の④のほか、⑤を選んだ人も多かったですが、「情識」は強情の意ですし、こちらの方が本文の趣旨とも合致します。

後期

㊦の現代文は、化学者である著者が専門である化学「以外」を学んだ意義について述べた文章です。全体に正答率は高めでしたが、いくつか低い問題もあり、問一の中ではeが3割弱でした。シカツを「死活」と認定することはさほど困難ではないでしょうから、正答である⑤「活写」が見慣れない語句であったのかと思います。同じく語句の問題では、問二のウ「片言隻句」（正答は①）の正答率が2割強と低めでした。エも正答（⑤）は半数弱で、「思い出した」という語句自体はごく一般的ですから、他の問題以上に、文脈の理解が重要でありました。

最後の問十、文学史問題も正答率が2割弱でした。漱石のデビュー作は『吾輩は猫である』、絶筆は『明暗』です。実は、『明暗』が絶筆であることを知っていれば正答の⑤が選べる問題です。たいへん著名な作家のデビュー作と絶筆ということで、文学史の基本的な知識を問う問題となります。

㊦の古文は、俳人の書簡という、やはり教科書等にはあまり掲載されない文章であろうと思います。最初の問一が若干難しかったようで、正答率は3割弱でした（正答は⑤）。「情けなし」には「薄情」「思いやりがない」といった意味もありますが、其角の評は、去来の発句を批判しているわけではないので、①・②では不適当で、⑤が適当ということになります。問五も正答率は3割ほどでした（正答は③）。「歌の魂」という語句が理解しにくかったのでしょうか。傍線部4の前後の文脈を追っていくと、前では道綱の母の和歌を元に去来が発句を詠んだと、後では「発句の手柄（＝優れたところ）少なく」とあります。それでは、「手柄」はどこにあるのかと言えば、元になった道綱母の和歌にある、ということになります。

問六は正答率が1割程度と、この大問内でもっとも正答率の低い問題でした。「なほ」の意味としては④もあり得ますが、ここの文脈には合いません。二重傍線部イから遡っていくと、前行の後半に「殊には「知れや」と」とあります。この「知れや」はBの句を、「再び句作」とあるのはBの次にCを詠んだことを指します。そして、最後にA「応々と」の句を思い至ったと続く文ですから、①の「さらに」が適当です。

総合型選抜	公募型学校推薦選抜	英 語 数 学	物 理	学 生	国 語	一 般 選 抜
公募型学校推薦選抜	公募型学校推薦選抜	公募型学校推薦選抜	公募型学校推薦選抜	公募型学校推薦選抜	公募型学校推薦選抜	一般選抜英語
英 語	英 語	英 語	英 語	英 語	英 語	一般選抜日本語
英 語	英 語	英 語	英 語	英 語	英 語	一般選抜世界史
英 語	英 語	英 語	英 語	英 語	英 語	一般選抜生物
英 語	英 語	英 語	英 語	英 語	英 語	一般選抜化学
英 語	英 語	英 語	英 語	英 語	英 語	一般選抜数学
英 語	英 語	英 語	英 語	英 語	英 語	一般選抜国語

国語（前期A方式 1/29）

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。解答番号は 1 ～ 25。

寛容（tolerantia）という言葉は社会体制に使うようになったのは、中世の教会法学者たちである。それは、まず教会内の教えとして始まり、次いで世俗の支配にも適用されて拡げられていった。

中世的な寛容が理解しにくいのは、先ほど描いたような寛容の一般的な筋書きが前提にされているからである。

a、宗教というものはそれぞれが絶対的な真理を所有していることを主張するので、寛容はあり得ない、という前提である。だが実際には、そういうところこそ、寛容という概念が機能した。社会の価値体系が一律で、人びとの信仰や道徳の意見がおおむね一致しているところにこそ、寛容という概念の出番があったのである。

寛容とは、一つの価値体系の中に他者を位置づける、きわめて実際的な方法だった。当時の人びとは、自分たちの考え方が正しくて、それ以外は間違いだと思っていており、違う考え方を是認しようとは思っていなかった。

は自分たちと違う人びとを寛容に扱う道を知っていた。これが寛容という言葉の b、彼ら

一二世紀から一四世紀にかけての教会法学者たちは、特に宗教の領域に寛容概念を適用していた。一一四〇年頃にまとめられた「グラティアンス教令集」には、tolerantia という動詞がひんばんに使われている。「悪しき行為を罰せずにいる」という意味である。

そのテンギとされているのが、アウグスティヌス（三五四―四三〇）という教父である。彼は、年代的な区分からすると古代人だが、その理解はすでに中世的特徴を示していると言つてよい。アウグスティヌスにとって、「寛容」とは「悪人たちを見逃す」という意味であった。（①）教会というところは、善人ばかりで成り立っているわけではない。イエスもはっきりと語っている通り、そこには「麦」と「毒麦」がともに生えており、その違いはこの世の終わりに至るまで、誰にもわからないのである。だから、教会から毒麦すなわち悪人を取り除くことはできないし、彼らをキョウセイしたり隔離したりすることも不可能である。そんなことをすると、むしろ教会の平和を乱すことになる。だから寛容にすべきだ、というのである。

（②）アウグスティヌスは、もし「教会の平和を危険にさらすことなく、これら邪悪な者たちをキョウカイできる機会があるならば」という c、厳格にキョウカイすべきだ、と言っている。悪に対して無関心でよい、ということではない。悪はあくまで悪であり、罰せられるべきなのである。全体的な差し引き勘定からして、罰する方がプラスだ、と判断できれば罰する。罰しない場合でも、それは悪であり続ける。罰しないのは、悪くないと判断されたからではなく、罰すると大きな弊害をもたらすからである。

この議論から明らかなように、アウグスティヌスにとって、寛容は個人の徳を超えた社会的な概念である。それは、全体のバランスを勘定に入れた結果、権力の自己抑制として、キョウセイや処罰という力の行使を慎むことである。これを継承して発展させていったのが、中世の教会法学者たちだった。

（中略）

具体的に寛容の対象となったのは、「異教徒」と「高利貸し」と「売春」の三つである。それぞれの議論には、現代の倫理感覚からすると差別的な内容が含まれるが、中世的な寛容を理解する上で重要なので、少しだけお付き合いを願いたい。

キリスト教中世の不寛容といえは、まずユダヤ人が対象である。ある人が「ユダヤ人を寛容に扱う」と言う場合、それは「本来ならば退けられるべき悪ないし誤謬だ」が、それを退けずにいる」という意味である。逆に、「ユダヤ人を寛容に扱わな」ということは、彼らの存在を認めずに追放するか、キリスト教への回心を強制することである。だが、信仰は自由意志によらねば真の信仰とは言えないから、強制は「より大きな悪」をもたらす。（③）だからそれを防ぐために、「より小さな悪」として彼らの存在をそのまま認めるのである。ユダヤ人の存在を是認したり、その信仰を尊重したりするがゆえの寛容ではない。

c、こうも言われている。教会は、単にユダヤ人を罰しないだけでなく、人びとがユダヤ人の宗教を邪魔するようなことがあれば、これを防いで、ユダヤ人の宗教を守らねばならない。カトリック教会最大の神学者トマス・アクイナス

A 1（国）

－ 1 －

（二三五項―二七四）は、次のように明言している。すなわち、ユダヤ人が自分たちの礼拝や儀式をする権利は、守られねばならない。彼らに回心を強制したり、親の反対を押し切って彼らの子に洗礼を授けたりしてはならず、彼らを追放したり攻撃したりしてはならない。（④）これらは、「たとえ征服の上で捕虜にした場合です」認められねばならない原則であつて、普通の市民として平和に暮らしているユダヤ人には、なおのこと認められねばならない。

（中略）

どの議論でも、は、という判断に変わりはない。トマスは、ユダヤ人は罪を犯しており、われわれの敵だ、とすら言っている。ユダヤ人を「好き」になれ、というのではない。「愛せよ」という命令ではなく、「憎むな」という命令であり、その憎しみを外的な行為に表現するな、という命令である。

（⑤）ここには、研究者たちが「寛容のパラドックス」と呼ぶものの一つが潜んでいる。寛容であるためには、相手を嫌ひなければならぬ。なぜなら、寛容とは嫌ひものや悪しきものに対してのみ可能だからである。誰も、「自分はアイスクリームに寛容である」とか「お年玉をもらうのに寛容である」などと言って威張る人はいないだろう。いるとしたら、ダイエツのために甘い物を避けているとか、貨幣経済は悪魔のショギョウだと信じているとか、何かしら否定的な理由がある時だけである。人は、好きなものや嬉しいものに対して寛容になることはできない。はじめからは認認しまつているからである。

d、寛容の出発点には、否定的評価がなければならない。その上で、それを容認するのである。否定も明確だが、容認も明確である。たとえばトマスは、キリスト教徒である支配者たちに向かって、ユダヤ人である臣民を公正に扱うべきことをサトしている。定められた税以上の不正な取り立てをしてはならない。それは、ユダヤ人が善良な臣民だからではない。彼らに対する寛容が、支配者の義務だからである。ユダヤ人は、あくまでもキリスト教社会のシユウエンに位置づけられたまま、そういう不平等な位置づけを認めつつ、彼らを正當に扱わねばならない、というのである。

（中略）

一七世紀のニューイングランドでも、このような寛容理解はそのまま踏襲されている。ただし、その同じ評価軸の上で、ピューリタンは中世の人びとは逆の結論に達している。中世の教会は、中世的な意味で寛容であつたのに対し、ピューリタンは同じ中世的な意味で不寛容であつたのである。

（中略）ニューイングランドの人びとは、教会と社会とを自分たちの理想に従つて形づくろうとした。ゼロから社会を作るのだから、あえて意見の異なる人を受け入れる必要がなかった。（⑥）寛容になる必要のないところでは、寛容になってはならないのである。（中略）植民地政府を代表する神学者のジョン・コトンが、異端分子であるロジャー・ウィリアムズを追放処分した時も、「より大きな悪を防ぐ」ことが根拠になっている。 e、に

まさにここに、ピューリタンが不寛容であつたことの理由がある。中世的寛容の論理に従えば、必要がないのに寛容になることは、危険な反社会的行為である。彼らにとっては、不寛容ではなく寛容が悪だつたのである。そのような寛容は、「誤謬の奨励」であり、「真理への無関心」であり、「悪魔の業に賛同すること」であつた。初代総督ウィンスロップの朋友で、後に彼よりも厳格な総督になったトマス・タッドレイに、寛容は「真理への愛が冷めきつている」ことを示す。新大陸で最初の法体系をキョウしたナサニエル・ワードによれば、寛容を示すことは「は」か「不誠実である」かのどちらかではない。（「複数信仰（poly-theism）」は「最大の不信仰」なのである。

e、寛容を求める人も、中世の論理をそのまま踏襲している。一六四四年のロジャー・ウィリアムズの記事には、市民政府は誤つた信仰を是認（approbation）しなくとも容認（permission）はすべきである、という中世教会以来の言い回しがそのまま登場する。

（森本あんり『不寛容論——アメリカが生んだ「共存」の哲学』による）

A 1（国）

－ 3 －

A 1（国）

－ 4 －

総合型選抜

公募型学校推薦選抜

英

公募型学校推薦選抜

数

公募型学校推薦選抜

学

公募型学校推薦選抜

物

公募型学校推薦選抜

学

公募型学校推薦選抜

国

公募型学校推薦選抜

語

一般選抜

一般選抜英語

一般選抜日本史

一般選抜世界史

一般選抜生物

一般選抜化学

一般選抜数学

一般選抜国語

注1 ニューイングランド＝アメリカ合衆国北東部の地域。十七世紀前半以降、イギリスから渡ってきたピューリタン（清教徒）の移民が植民地を築いた。後文に見えるウインズロップやトマス・ダッドレイは、そのマサチューセッツ湾植民地の総督。

注2 ロジャー・ウィリアムズ＝ロンドンからアメリカへ移住した聖職者で植民地建設者（一六〇三年頃～一六八三年）。政教分離と信教の自由を実現すべくニューイングランド南部のロード・アイランドに新たな植民地を設置してその総督を務めた。

問一

~~~~線部A～Eの漢字と同じ漢字を含むものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。

~~~~解答番号は~~~~

~~~~1~~~~

~~~~5~~~~

A

~~~~テンキョ~~~~

~~~~1~~~~

~~~~1~~~~

~~~~2~~~~

~~~~3~~~~

~~~~4~~~~

~~~~5~~~~

~~~~1~~~~ 群雄カヅキョの戦国時代。

~~~~2~~~~ ブツコした伯父が残した名刀。

~~~~3~~~~ 古物商はキニンカ制となった。

~~~~4~~~~ コムソウが奏でる尺八の調べ。

~~~~5~~~~ イツキョシュエイトウソクに注目が集まる。

B

~~~~シヨキョウ~~~~

~~~~2~~~~

~~~~1~~~~

~~~~2~~~~

~~~~3~~~~

~~~~4~~~~

~~~~5~~~~

~~~~1~~~~ ショセイにたけた苦勞人。

~~~~2~~~~ ショハンの事情によるグループ解散。

~~~~3~~~~ シヨロウの時節を迎えて気力が減衰する。

~~~~4~~~~ ショミンの生活に影響を及ぼす。

~~~~5~~~~ 首相によるショシン表明演説。

C

~~~~サトシ~~~~

~~~~3~~~~

~~~~1~~~~

~~~~2~~~~

~~~~3~~~~

~~~~4~~~~

~~~~5~~~~

~~~~1~~~~ 発達教育学部卒業の幼稚園キョウユ。

~~~~2~~~~ ユイショ正しい名家の御曹司。

~~~~3~~~~ 執行エウヨ五年の判決。

~~~~4~~~~ 猫とエツのひとときを過ごす。

~~~~5~~~~ ヘイユ折願の仏閣参詣。

— 6 —

A 1（国）

一般選抜

一般選抜英語

一般選抜日本史

一般選抜世界史

一般選抜生物

一般選抜化学

一般選抜数学

一般選抜国語

問二

~~~~a~~~~

~~~~e~~~~

~~~~10~~~~

~~~~6~~~~

~~~~b~~~~

~~~~7~~~~

~~~~c~~~~

~~~~8~~~~

~~~~d~~~~

~~~~9~~~~

~~~~1~~~~

~~~~2~~~~

~~~~3~~~~

~~~~4~~~~

~~~~5~~~~

~~~~1~~~~ 隣家からの出火によるエンショウ。

~~~~2~~~~ 大学のエンカクを示す文章。

~~~~3~~~~ エンコを頼って京都に逃れた。

~~~~4~~~~ サイエンの誉れ高い同級生。

~~~~5~~~~ エンジュクした技芸の集大成。

E

~~~~キンソウ~~~~

~~~~5~~~~

~~~~1~~~~ シンソウの令嬢という化けの皮をはがす。

~~~~2~~~~ シンソウ究明を求める記者会見。

~~~~3~~~~ ソウサク意欲を刺激する体験。

~~~~4~~~~ ソウリを脱いで裸足で歩いた。

~~~~5~~~~ 宅地としてソウセイされた空き地。

問三

~~~~い~~~~

~~~~は~~~~

~~~~15~~~~

~~~~11~~~~

~~~~ろ~~~~

~~~~12~~~~

~~~~は~~~~

~~~~13~~~~

~~~~に~~~~

~~~~14~~~~

~~~~1~~~~ 道義的

~~~~2~~~~ 実質的

~~~~3~~~~ 普遍的

~~~~4~~~~ 生得的

~~~~5~~~~ 包括的

~~~~1~~~~ 通り一遍の前提ではあるが

~~~~2~~~~ 言質を取るために

~~~~3~~~~ 条件を飲んだとしても

~~~~4~~~~ 但し書きつきで

~~~~5~~~~ 懐の深さを見せつつ

~~~~1~~~~ 同心の強制は「より小さな悪」である

~~~~2~~~~ 攻撃の対象が寛容である

~~~~3~~~~ 寛容の対象が悪である

~~~~4~~~~ 「より大きな悪」こそを攻撃すべきだ

~~~~5~~~~ 不寛容は責められるべきでない

~~~~1~~~~ 比較考量

~~~~2~~~~ 自己抑制

~~~~3~~~~ 市民倫理

~~~~4~~~~ 絶対真理

~~~~5~~~~ 集団協議

~~~~1~~~~ 法を侮り見くびっている

~~~~2~~~~ 中世の評価軸を墨守している

~~~~3~~~~ 新大陸のやり方を心得ている

~~~~4~~~~ ピューリタンとして目覚めている

~~~~5~~~~ 自分の宗教に疑念を抱いている

— 8 —

A 1（国）

問二

~~~~a~~~~

~~~~e~~~~

~~~~10~~~~

~~~~6~~~~

~~~~b~~~~

~~~~7~~~~

~~~~c~~~~

~~~~8~~~~

~~~~d~~~~

~~~~9~~~~

~~~~1~~~~

~~~~2~~~~

~~~~3~~~~

~~~~4~~~~

~~~~5~~~~

~~~~1~~~~ 隣家からの出火によるエンショウ。

~~~~2~~~~ 大学のエンカクを示す文章。

~~~~3~~~~ エンコを頼って京都に逃れた。

~~~~4~~~~ サイエンの誉れ高い同級生。

~~~~5~~~~ エンジュクした技芸の集大成。

E

~~~~キンソウ~~~~

~~~~5~~~~

~~~~1~~~~ シンソウの令嬢という化けの皮をはがす。

~~~~2~~~~ シンソウ究明を求める記者会見。

~~~~3~~~~ ソウサク意欲を刺激する体験。

~~~~4~~~~ ソウリを脱いで裸足で歩いた。

~~~~5~~~~ 宅地としてソウセイされた空き地。

|       |           |   |           |    |           |    |           |    |           |   |           |   |      |        |         |         |        |        |        |        |
|-------|-----------|---|-----------|----|-----------|----|-----------|----|-----------|---|-----------|---|------|--------|---------|---------|--------|--------|--------|--------|
| 総合型選抜 | 公募型学校推薦選抜 | 英 | 公募型学校推薦選抜 | 語数 | 公募型学校推薦選抜 | 学生 | 公募型学校推薦選抜 | 物化 | 公募型学校推薦選抜 | 国 | 公募型学校推薦選抜 | 語 | 一般選抜 | 一般選抜英語 | 一般選抜日本史 | 一般選抜世界史 | 一般選抜生物 | 一般選抜化学 | 一般選抜数学 | 一般選抜国語 |
|-------|-----------|---|-----------|----|-----------|----|-----------|----|-----------|---|-----------|---|------|--------|---------|---------|--------|--------|--------|--------|

問四 ―線部甲「キョウセイ」、乙「チョウカイ」に使われる漢字と同じ漢字を含む故事成語をA群の①～⑤の中から、その成語の意味をB群の①～⑤の中から、それぞれ一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は **16** ～ **19**。

甲「キョウセイ」

- A群
- ① 水清ければ魚棲すまず
  - ② 角を矯こめて牛を殺す
  - ③ 桃李もの言われども、下自かみずから隙ひまを成す
  - ④ 柔能なく剛を制す
  - ⑤ 禍福は糾よる繩のごとし

- B群
- ① しなやかで弱いものが、かえって強いものに勝る。
  - ② あまりにも廉潔な人物は、かえって他人に疎んじられる。
  - ③ 徳のある人のところには、それを慕って人が集まってくる。
  - ④ この世の幸不幸は表裏をなして、何がそれらをもたらすかわからない。
  - ⑤ 小さな欠点を改めようとして、かえって全体をだめにする。

乙「チョウカイ」

- A群
- ① 天網恢く々疎そにして失わず
  - ② 人生は朝露のごとし
  - ③ 藥に飲ありて膽いを吹く
  - ④ 過ちを改めざる、是れを過ちと謂いう
  - ⑤ 先ずは隄さより始めよ

- B群
- ① 大きな事を成すには身近なことから着手すべきである。
  - ② 間違いはやむを得ないがそれと気づけばすぐ正せ。
  - ③ 人間の一生とははかないものである。
  - ④ 一度の失敗に嫌気がさして必要以上に用心してしまう。
  - ⑤ 悪事は必ずその報いをうけるものである。

問五 次の二文が入る最も適当な箇所を、問題文中（①）～（⑥）の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **20**。

といって、彼らをそのまま放っておけばよい、ということでもない。

A 1 (国)

— 9 —

A 1 (国)

— 10 —

問六 ―線部1「アウグステイヌスにとって、寛容は個人の徳を超えた社会的な概念である」と問題文の筆者が考えるのはなぜですか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **21**。

① アウグステイヌスの寛容によれば、たとえイエスの言う「毒麦」であっても摘むことはできないが、それは「麦」と「毒麦」すなわち個々人がもつ徳を誰も判断できないからであり、誰もが判断できない以上、それは個人を超えて適用される社会的概念となるから。

- ② アウグステイヌスにとって、寛容は権力の自己抑制として機能する点において、もとより個人の資質に属するものではなく、キリスト教の教義を前提にしつつ、教会ひいては社会の安定を保つために運用されるべき概念であるから。
- ③ アウグステイヌスにとっての寛容は「悪人たちを見逃す」ことであるが、古代から中世においてこれは個人の判断によつてできることではなく、教会がイエスのことばにもとづいて決定しうえて、社会の平和を乱さないために用いるべき概念であるから。
- ④ アウグステイヌスの寛容は、更生や処罰といった力の行使と結びつく点において、すでに権力者個人の徳の問題ではなく、「麦」に「毒麦」が混在する教会という場を安定的に運営すべき権力に対する社会的規制であるから。
- ⑤ アウグステイヌスの寛容によつても、邪悪な者たちを罰することができる限りはそうすることを求めるが、教会の平和を危険にさらさずそれを行えるかは、個人の能力の問題ではなく、社会を治める権力をもつ者がその行使を慎みつつなすべき課題であるから。

A 1 (国)

— 11 —

問七 ―線部2「カトリック教会」に関連して、カトリック教徒の作家として知られる遠藤周作について、次の（1）～（2）の問いに答えなさい。

- （1）遠藤周作の作品を、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **22**。
- ① 仮面の告白      ② 掌の小説      ③ 海と毒薬      ④ 万延元年のフットボール      ⑤ 斜陽
- （2）遠藤周作や、安岡章太郎、吉行淳之介、庄野潤三などの同世代の作家たちに対して名づけられた文学史上の呼称を、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **23**。
- ① 第三の新人      ② 新思潮派      ③ 新感覚派      ④ 内向の世代      ⑤ 白樺派

A 1 (国)

— 12 —



総合型選抜

公募型学校推薦選抜

英 語 数 学

公募型学校推薦選抜

生 物

公募型学校推薦選抜

物 理

公募型学校推薦選抜

化 学

公募型学校推薦選抜

国 語

公募型学校推薦選抜

問八 ―線部3「寛容のパラドックス」とありますが、問題文におけるこの言葉の説明として最も適当なものを、次の①～⑥の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **24**。

① パラドックスとは、見た目は肯定の形式を取りながら、逆に否定的結論を導き表現をいう。ここでは、誰もが喜ぶであろうお年玉に対し、あえて「寛容である」という肯定の表現を重ねることによって、逆に貨幣経済の欠点という否定的事実をえぐり出している。

② パラドックスとは、一見真理に反しているように見えるが、その実ある種の真理を言いあてている表現をいう。「愛せよ」と命令しないことはキリストの教えに反しているように思えるが、実はこの方法によってこそ、大きな弊害を避けて中世キリスト教社会を維持することができた。

③ パラドックスとは、相反するふたつの事象が、高度な次元でその矛盾を解消して統一をはかるような表現をいう。寛容と嫌悪という矛盾する感情がぶつかりあい、愛さないまでも憎まないという感情に統一されることで、一段階上での解消が実現している。

④ パラドックスとは、見た目は肯定の形式を取りながら、逆に否定的結論を導く表現をいう。寛容が本来もつと考えられる好意や愛情という肯定的感情が、是認ではなく相手への憎悪という否定的感情を条件とすることを逆に我々に確認させる結果を導いている。

⑤ パラドックスとは、一見真理に反しているように見えるが、その実ある種の真理を言いあてている表現をいう。寛容とは相手への愛によるもので憎悪に裏打ちされているとは考え難いが、実は対象への否定的感情を前提としない限り、それを受け容れるという態度は生じるべくもない。

⑥ パラドックスとは、相反するふたつの事象が、高度な次元でその矛盾を解消して統一をはかるような表現をいう。ここでは、アイスクリームにあえてダイエットという否定的理由をぶつけることで、「アイスクリームに寛容である」というような高度に統一された表現がなされている。

問九 ―線部4「中世的寛容の論理」とありますが、問題文におけるこの言葉の説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **25**。

① キリスト教に絶対的真理があることを前提としつつも、実際の教会や社会には「悪毒」のような悪が存在することから、邪悪が平和裡に排除できない限りはそれを是認することで「小さな悪」を罰せずに見のがそうとするような、バランス感覚に優れた考え方。

② 一律な社会的価値体系をもち自らの信仰のみが正しいと考えるような人々が、この世の終末に生まれべき善悪の審判が下るまでは遠ざけることができない悪人を、キリスト教がもつ救済の教義に従ってとりあえず「見逃す」ことを認めたような、現実的な考え方。

③ 後世のビュリタンが同じ論理から生じた逆の結果として見せた不寛容と同様に、全体のバランスを計算した結果、異教徒を「憎む」ことよりも「好き」になり「愛する」ことに利があると考えられる場合には、是認はしないまでも容認するような、実利的な考え方。

④ 中世の教会法学者たちが、アウグスティヌスの持つ権力の自己抑制の態度を敷衍し、「異教徒」や「高利貸」「売春」を寛容の対象とすることを目的として、彼らに対する追放や攻撃を禁じて存在をそのまま認めたような、現実社会の実態に即した考え方。

⑤ 悪はあくまで排斥されるべきものであるという立場を堅持しつつ、「悪しき行為を罰せずにいる」ことによって、危険を冒すことなくより大きな美利が得られるならば、小さな邪悪に対して方便として目をつぶり隔離せずにおくような、実際のな考え方。

一般選抜

一般選抜英語

一般選抜日本史

一般選抜世界史

一般選抜生物

一般選抜化学

一般選抜数学

一般選抜国語

**二**

次の文章は、体調のすぐれない妹姫君が静養のため都を離れ、入道殿（妹姫君の父）の隠居している郊外の広沢の地に移り住み、かつて天人から琵琶の楽曲を伝授された時のことを思い出している場面です。妹姫君が琵琶を弾いていたところに、兄の宰相の中將が見舞いに訪れます。これを読んで、後の問いに答えなさい。解答番号は **26** ～ **44**。

入道殿は、その後「いかにしてか慰めきこえて、哀へたまへるをなほしたてまつらむ」と思ひ、常に、常は暗るる世なく大きくくらざるに、八月になりて、十五夜の月いとくまききに、昔思ひ出でたまひて、

「いみじく心乱るべきもので」と月の都の人のたまひしは、げに」

と思ひ合はせられて、やすき慣らひには涙のみ流れて、琵琶を引き寄せ、夢の伝への音を御心の澄むまに惜しむことなく弾きたまふに、宰相の中將参り合ひて聞きたまふに、雲居にも目見入れきこゆるものやあらむと、それ恐ろしきまでありがたく、これをただ今、後の位になしたてまつりて、この御ありさまには足らずおぼゆべきに、いふかひなきまて沈めたてまつること、口惜しくかなしくおぼえたまふ。

「かやうの道には入道殿をこそ例なきこに申しはべるに、御琴をは教へたまひしが、琵琶はさも承らず。かつてはその御伝へともおぼえたまはず。言ふ限りなき手をば、いかにして伝へたまひけるに」

と申したまへば、つつましくは思せど、

「これは殿も習はしたまは **I** しかば、わがと弾かむとも思はざりしを、いつぞや、今月の月の、かくくまなかりしに、琴を弾きて、やがて端に寝入りてはべりし夢に、言ひ知らずうつくしかりし人の来て、しかしか言ひて教へたまひて、

「今、人の知ら **II** 五つ残りたるをば、明年の今宵必ずくだり来て教へむ」とのたまひしかば、約束の夜、待ちしに、夢に同じ人のおはして、五の教へて、帰りましたまふとて、**E**「もの思ふべき宿世のあるがあたらしき」とて帰りましたまひぬ。その教へたまひし手ども、**X** 忘れはべらねども、この世の伝へなら **III** ば、人の聞くには弾きはべらず」とのたまふに、いとどめづりかにおぼえて、

「げにもこの世のことは聞きはべらず。このごろたぐひなき上手とは、大納言殿、式部卿の宮の中將をこそ思ひ出ではべりつれ。殿上の御遊びの折々、げにいと限りなき音」にはべり。大納言殿の琵琶の音は、をかしうおもしろく、撥音の静やかにはづかしく聞こえたまふ。このふたりの琵琶もかけて申しくらぶべくもはべらず。げにさやうのありがたき伝へとおぼえはべる。大納言殿の琵琶は、近きほどにておのづから聞かせたまひけむとおぼえはれど、ものやはらかにうら解けたる所もなく、もの思はしげにのみおはすれば、えさもはべらざりけるにや。いかで、このころ月おもしろきに、中將誘ひてその琵琶を聞かせたてまつらむ。この人々は遊びの所にも笛ばかりを吹きて、琵琶をは弾きたてにくくして、おほろけならは仕うまつらず。まして、大納言、中將、参り合ひたまふとときは、いみじくいとみて、わりなき仰せどもかうぶりましたまへども。中將はかかる所のあはれを見せ知らせて申さば、などが弾きたまはざらむ。御夢の教へ、げにひがこともやと、聞かせ参らせばや」

など申したまふ。心のうちは、

「さやうの天の楽、まさにはひがことあらむや。もの思ふべき宿世のおはすと教へたまひけむさへたがはず、またの年と契りたまひけむも確かなり。これを思ふに、この御もの思ひも始終あるべくは、何かは、**F**「伝ふべき人もなし。君ばかりこそと思ひ」とて、ふたとせまでおはして残す手なく伝へたまふべき」

と思し続く。

（『夜寝覚物語』による）

注1 その後、妹姫君を迎え取って以後。

注2 やすき慣らひ、いつもなりがちな習慣。

注3 御琴をば教へたてまつりたまひしが、琵琶はさも承らず、入道殿は琴は教えていたが琵琶は教えていなかったこと。

選拔國語

総合型選抜  
公募型学校推薦選抜  
英  
語  
数  
学  
生  
公  
募  
型  
学  
校  
推  
薦  
選  
抜  
物  
理  
化  
学  
公  
募  
型  
学  
校  
推  
薦  
選  
抜  
国  
語  
公  
募  
型  
学  
校  
推  
薦  
選  
抜  
語  
一  
般  
選  
抜  
一  
般  
選  
抜  
英  
語  
一  
般  
選  
抜  
日  
本  
史  
一  
般  
選  
抜  
世  
界  
史  
一  
般  
選  
抜  
生  
物  
一  
般  
選  
抜  
化  
学  
一  
般  
選  
抜  
数  
学  
一  
般  
選  
抜  
国  
語

問八  
線部イ「この御もの思ひも始終あるべくは、何かは、『伝ふべき人もなし。君ばかりこそと思ふ』とて、ふたとせまでおはして残す手なく伝へたまふべき」と宰相の中將が思つたのはなぜですか。その理由として最も適當なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 43。  
① 妹姫君が思ひわずらうことがいづれ終るのであれば、二年にわたる天人による来訪と楽曲の伝授は、不要なのではないかと思つたから。  
② 妹姫君のものの思いが一生続くのであれば、楽曲の伝授に値するのは君だけという天人の賞讃は、的外れなのではないかと思つたから。  
③ 天人の予言めいた言葉が確かで、妹姫君の苦悩の人生が続くならば、楽曲の伝授者であることに価値は無いのではないかと思つたから。  
④ 天人の言葉どおり、妹姫君の悲嘆に満ちた人生が続くのであれば、選ばれて天人の楽曲など伝授されないほうがよかったと思つたから。  
⑤ 物語が永遠に続くという天人の言葉も、妹姫君が二年間広沢に滞在して、楽曲を人々に伝授すれば覆せるのではないかと思つたから。  
問九  
『夜寝覚物語』とジャンルの異なる作品を、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 44。  
① うつほ物語 ② おちくば物語 ③ 狭衣物語 ④ たまきはる ⑤ とりかへばや (国語問題 おわり)

問七  
線部イ「後の位になしたてまつりても、この御ありさまには足らず」とはどういうことですか。最も適當なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 42。  
① 後の位に就くことができるとしても、天人から人知を超えた楽曲を習う幸福にはかなわないということ。  
② 後の位を譲られたとしても現世での物思ひの深さは変わらないので、妹姫君には意味が無いということ。  
③ 後は女性としては至高の地位であるけれど、天上界に迎えられることに比べれば物足りないということ。  
④ これまでの位に就いた女性は美しい容貌の持ち主であつたが、妹姫君には及ぶくもないということ。  
⑤ 女性最高の身分である後の位を与えたとしても、妹姫君のすばらしさにはまだ不十分であるということ。

— 22 — A 1 (国)

一  
次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。解答番号は 1、23。  
裁判員法には、「裁判官と共に刑事訴訟手続に関与することが司法に対する国民の理解の増進……に資することにかんがみ」という、思わず本音が出たともみられるフレーズがある。裁判員の参加する刑事裁判に関する法律第一条。刑事裁判への関与を通して、国民を啓蒙しようというわけであるが、ここに、権力側の意図が透けて見える。  
当局の側がこのようなことを考えているとすれば、それは、第一に、市民に対して無礼である。市民の側は、少なからぬ時間と労力をかけて裁判に市民参加する。その生活上、仕事上の負担は大きい。精神的負担は、なお大きい。そのような多大のギセイを払い、負担を背負つてまで、啓蒙されるいわれなど、市民の側にはどこにもない。  
第二に、啓蒙とは、権力側がやることではない。権力がそれをおこなうとすれば、啓蒙ではなくて権力化の試みになるのであり、かつそれにしかなり得ない。  
自由で自律的な市民は、決して当局から啓蒙などされるわけにはいかない。それは権力への迎合であり、権力側の目論見にはまることであり、市民の意欲が無力化されることにほかならない。  
つまり、裁判員法一条に垣間見える権力側のコンタンは、逆に、それだけで市民の抵抗を促すだろう。額面通りに市民参加の根拠を受け取れないばかりが、市民の側の抵抗と闘争を必然化する逆根拠となる。  
裁判員制度は、公式には、職業裁判官と市民との協働をうたっている。専門的知識と市民感覚の協働である。  
職業裁判官と市民が互いの力や持ち味を出し合い、協力して一つの結論に向かうという美しくも胡散臭い理念が語られている。胡散臭いというのは、そこには、実は、不都合な前提が隠れているからである。  
裁判員制度が市民参加による司法の民主化を言う以上、市民は職業裁判官と同じ立場には立てない。もし、同じ立場に立つなら、従来の司法と何も変わらないことになり、い されているところ (司法の民主化 は実現しない。市民参加によつて司法の民主化を実現するという大前提に立つからには、市民は裁判官とは ろ に 協調できないはずである。  
ある。「協働」のうたい文句は、権力論につながる大前提に故意に蓋をしてしまっている。  
a 裁判員は、最終的には裁判をおこなう。被告人を裁くわけである。だから、裁判官とともに裁判活動をするという意味では、協働作業と言つてもよい。しかし、単純な協働ではない。協働するにしても、前提には大いなる違いがある。具体的な協働の身にも、あくまで立場の違いがくる。 b が出てくるはずである。  
(中略)  
比喩的に言えば、市民は、権力の一部として裁く前に、権力と闘う必要がある。自分をその一部にしようとする権力と闘わなければならない。別の言い方をすれば、被告人を裁くことだけに汲々としていたのでは意味がない。単に司法権力に協力者として動員されただけに終わってしまうだろう。  
司法制度改革として立法化された裁判員制度は、立法の c に や当局の意図はともかく、結果的には、市民サイドに大きな権限を認めた。  
新しい日本の刑事裁判 (裁判員裁判) では、裁く者の人数構成は、原則的に、職業裁判官三名に対して裁判員六名となった。一人の権限の重さは、職業裁判官と裁判員とで変わらない。結論の決定方法は、多数決となった (過半数の単純多数決。ただし、有罪判決をする場合は裁判官一名の賛同を要するとの修正要件あり)。  
結局、以上からすれば、裁判員裁判を職業裁判官に対する批判と抵抗の場と心得た場合、市民必勝となる。  
(中略)  
日本の場合、市民は、その気になりさえすれば、内部から司法の在り方を要していくことができるわけである。言ってみれば、権力内権力テンブク手段を持つ。注  
いま、「市民は権力内権力テンブク手段を持つ」と言つたが、その意味を、ヴァルター・ベンヤミン『暴力批判論』に則つて示したい。  
裁判員の活動は、司法権力内の権限行使である。裁判員は、司法権力という権力内部に身を置き、 b 「法一

— 2 — A 2 (国)





|       |           |   |           |   |           |   |           |   |           |   |   |           |   |      |        |         |         |        |        |        |        |
|-------|-----------|---|-----------|---|-----------|---|-----------|---|-----------|---|---|-----------|---|------|--------|---------|---------|--------|--------|--------|--------|
| 総合型選抜 | 公募型学校推薦選抜 | 英 | 公募型学校推薦選抜 | 数 | 公募型学校推薦選抜 | 生 | 公募型学校推薦選抜 | 物 | 公募型学校推薦選抜 | 学 | 国 | 公募型学校推薦選抜 | 語 | 一般選抜 | 一般選抜英語 | 一般選抜日本史 | 一般選抜世界史 | 一般選抜生物 | 一般選抜化学 | 一般選抜数学 | 一般選抜国語 |
|-------|-----------|---|-----------|---|-----------|---|-----------|---|-----------|---|---|-----------|---|------|--------|---------|---------|--------|--------|--------|--------|

問二 ― 線部 i 「胡散臭い」、ii 「慣行」の意味として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は、i が **7**、ii が **8**。

i 「胡散臭い」

① 嫌悪感を持つこと。

② 十分に理解できないこと。

③ 欠点があることに気づかないこと。

④ そこはかとなく疑わしいこと。

⑤ 極めて怪しいこと。

ii 「慣行」

① ひそかに行うこと。

② 思い切って行うこと。

③ ゆっくり地道に行うこと。

④ よく調べて慎重に行うこと。

⑤ 従来からのならわしとして行われること。

A 2 (国)

問三

い **く** は **は** に入る最も適当な言葉を、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。

解答番号は、**い** が **9**、**く** が **10**、**は** が **11**、**は** が **12**、**ほ** が **13**。

い ( ① 要略 ② 容認 ③ 要約 ④ 要請 ⑤ 指摘 )

ろ ( ① 安全 ② 穏便 ③ 誠実 ④ 案外 ⑤ 安易 )

は ( ① 裁定 ② 差異 ③ 採決 ④ 同調 ⑤ 厄災 )

に ( ① 面目 ② 沿革 ③ 趣旨 ④ 手続 ⑤ 方法 )

ほ ( ① 素養 ② 根拠 ③ 関心 ④ 感覚 ⑤ 精神 )

問四

a **く** f **は** に入る最も適当な言葉を、次の①～⑦の中から一つ選び、それぞれマークしなさい。(同じ記号は一度しか選べません)。

解答番号は、**a** が **18**、**a** が **14**、**b** が **15**、**c** が **16**、**d** が **17**、**e** が **18**、**f** が **19**。

① もらう

② あくまで

③ あるいは

④ つまりは

⑤ たとえば

⑥ とはいえ

⑦ しかも

A 2 (国)

問五

X **は** に入る最も適当な文を、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **20**。

① まさに、新制度の下では、死刑問題は、市民と市民社会に対して大きな困難を伴う。

② まさに、新制度の下では、死刑問題は、市民と市民社会にとって最も重要な問題となる。

③ まさに、新制度の下では、死刑問題は、市民と市民社会に対して開かれている。

④ まさに、新制度の下では、死刑問題は、市民と市民社会にとってその判断領域に限界があるのである。

⑤ まさに、新制度の下では、死刑問題は、市民と市民社会に対して優位な地位を与えることになる。

問六

― 線部 i 「思わず本音が出たともみられるフレイズがある」とありますが、「本音」とはどういうことですか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **21**。

① 刑事裁判への市民参加によって刑事裁判に関心を持つように国民を啓蒙しようということ。

② 刑事裁判への市民参加によって刑事裁判を権力化するよう啓蒙すること。

③ 刑事裁判への市民参加によって市民の側の抵抗と闘争を必然化すること。

④ 刑事裁判への市民参加によって市民を権力へ迎合させることで、市民の意欲を無力化すること。

⑤ 刑事裁判への市民参加によって専門的知識と市民感覚を協働させ、司法の民主化を実現すること。

問七

― 線部 2 「そこには、実は、不都合な前提が隠れているからである」とありますが、「不都合な前提」とは、どのようなことですか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **22**。

① 裁判員制度によって、裁判員は、最終的には裁判を行うのであるから、裁判官の専門的知識の助けを借りながら、市民の常識を裁判に反映させて裁判官と協働作業を行わなければならないということ。

② 裁判員制度は、刑事裁判を民主化するため、同じ権限を持つ裁判官と市民との協働作業を前提としながら、結果的には、市民に大きな権限を与えてしまったということ。

③ 裁判員制度によって、司法の民主化を実現するためには、市民は裁判官との協働作業の意味をよく理解し、裁判官と同じ権限を持っているということ意識して裁判に臨むことが必要であるということ。

④ 裁判員制度によって、裁判員は、裁判において裁判官と同じ権限を持ち、裁判官と協働作業を行うことになるが、裁判官とは異なる立場で裁判に臨まなければ、刑事司法の民主化は実現できないということ。

⑤ 裁判員制度は、裁判官と市民の協働作業ということによって刑事裁判を民主化しようというものでありながら、実は、市民に裁判官より大きな権限を与えることによって刑事裁判において市民を優位に立たせようとしていること。

A 2 (国)

国語（前期A方式 1/30）

問八 問題文の筆者の主張に合致する内容として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。  
解答番号は **23**。

- ① 有罪・無罪の見極めや量刑論においては外在的限界を伴うが、市民の判断によって固定的な裁判慣行などの外在的限界を打ち破る必要がある。
- ② 死刑制度についてどう考え、個々の死刑判断をどう考えるかについては、市民は裁判官と協働することにより裁判官と同じ権限を持たなければならない。
- ③ 裁判には有罪・無罪の判断や量刑において固定的な裁判慣行が関連するが、市民感覚によって司法を改革しなければならない。
- ④ 裁判員裁判という「法」権力「自体が許容している既存の秩序の中で死刑権力の発動に対して、市民は、これを批判し、これに抵抗することで司法を改革しなければならない」。
- ⑤ 死刑問題は、社会思想、国民意識、文化一般の問題領域にかかわるので、市民の判断に馴染みやすく、裁判員制度による判断が適切である。

A 2 (国)

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。解答番号は **24** ～ **40**。

この男<sup>i</sup>、また、はかなきものたよりにて、雲居<sup>A</sup>よりもはるかに見ゆる人ありけり。ものいひつくべきたよりなりければ、いかなるたよりして、気色見せむと思ひて、からうして、たよりをたづねて、ものいひはじめてけり。「いかで、一度にても、御文<sup>A</sup>ならで、聞こえしがな」といふを、いかがはあべき、げに、よそにても、いはむことをや聞かまじと思ひけるほどに、「この女の親の、わびしくさがなき朽姫の、さすがにいとよくものの気色を見て、かしがましきものなりければ、かく文通はすと見て、文も通はず、責めまもりければ、この男は、せめて、「対面に」といひければ、この女ども、「かかる人の、制したまへば、雲居にてだにもえ」などいひ聞かせよとて **X**、迎ふる」といひければ、「今までなどかおのれにはのたまはざりつる。人の気色とらぬ先に、月見むとて、母の方にきて、わが琴弾かむ、それにきかれて、簾のもとに呼び寄せて、ものはいへ」とぞ、この、来たる親族<sup>iii</sup>ばかりける。さて、この男来て、簾のうちに、ものいひける。この友だちの女、「わが徳ぞ」といひければ、「れきこと」など、男、女、いひ語らふに、この、母の女のさがなものの、背まどひして寝にけるときこそありけれ、夜ふければ、目さまして起き上りて、「あな、さがな。なぞ寝られざらむ。もし、あややある」といひければ、この男、贅子のうちにはひ入りて隠れにければ、のぞきて見るに、人もなかりければ、「おいや」などいひてぞ、奥へ入りける。その間に、男、いで来たれば、「よし、これを見たまへ」「かかればなむ。命あらば」などいひけるほどに、「あやしくも、いませぬるかな」といへば、男、帰りぬ。

I たまさかに聞けと調ぶる琴の音のあひてもあはぬ声のするかな

といひたれば、この、琴弾きける友だちも、「はや返ししたまへ」といひけるほどに、親聞きつづけて、「いつこなりし盗人の鬼の、わが子をば、からむ」といひて、いで走り追へば、脊をだにもえ履きあへて、逃く。女どもは呼吸もせで、うつぶしふしにけり。かかりけれど、いみじう制しければ、言の通はしをだにえせて、ものいひけるたよりをも尋ねて、寄せざりけるほどに、こと人にあはせてけり。さりければ、男、親とあはすとも、さはあるべきとぞ、思ひ倦じてやみにける。

— 12 —

A 2 (国)

— 11 —

- 注1 朽姫＝老女をのしつて言う語。「朽ち女」ともいう。
- 注2 あややある＝「わけがあるのだろうか」の意。
- 注3 おいや＝感動詞。「おやおや」の意。

問一 線部a～eの意味として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。  
解答番号は **24** ～ **28**。

- a 「ものいひつく」
- ① 住所を尋ねる  
② 恋心を伝える  
③ 贈り物を届ける  
④ 華飾をつける  
⑤ 物の怪に憑かれる
- b 「さすがに」
- ① かえつて  
② しかし  
③ やはり  
④ とても  
⑤ 裏腹に
- c 「まもりければ」
- ① 目を付けていたならば  
② 見張っていたので  
③ 警戒していたならば  
④ 保護していたので  
⑤ 守っていたならば
- d 「さがなもの」
- ① 気が強い者  
② いたずら好きな者  
③ 素直な者  
④ 意地の悪い者  
⑤ 寂しい者
- e 「あやしくも」
- ① 不条理なことに  
② おかしなことに  
③ 卑しいことに  
④ ばかげたことに  
⑤ 不気味なことに

〔平中物語〕による

A 2 (国)

— 14 —

A 2 (国)

— 13 —



総合型選抜

公募型学校推薦選抜

英 語 数 学

公募型学校推薦選抜

生 活

公募型学校推薦選抜

物 理

公募型学校推薦選抜

学 校

公募型学校推薦選抜

国 語

公募型学校推薦選抜

問二 ――線部A「あ」の活用形として最も適当なものを、次の①～⑥の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **29**。

① 未然形      ② 連用形      ③ 終止形      ④ 連体形      ⑤ 已然形      ⑥ 命令形

問三 ――線部B「雲居にてだにもえ」の後には、ある表現が省略されていると考えられます。後に補う言葉として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **30**。

① あはじ      ② あひぬ      ③ あはばや      ④ あはむ      ⑤ あはね

問四 ――X に入る助詞として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **31**。

①こそ      ②は      ③か      ④し      ⑤なむ

問五 ……線部ⅰ～ⅴのうち、――線部C「おのれ」が指す人物として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **32**。

① i 「この男」      ② ii 「この女」      ③ iii 「来たる親族」  
④ iv 「母の女」      ⑤ v 「じと人」

問六 ――線部ア「雲居よりもはるかに見ゆる人」、イ「わが徳ぞ」、ウ「思ひ倦じて」の現代語訳として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は、アが **33**、イが **34**、ウが **35**。

ア「雲居よりもはるかに見ゆる人」

① 内裏の中でも重要な地位にいる人  
② 雲の上まで追いかけたくなるような愛しい人  
③ 雲の上からでもはっきりと見えるような美しい人  
④ 大空よりも遠いところにいるように思える人  
⑤ 宮中から世の中を見渡している身分の高い人

イ「わが徳ぞ」

① 私がこちそうしますよ。  
② 私のおかげですよ。  
③ 私の利益になりますよ。  
④ 私までうれいんですよ。  
⑤ 私がやりとげますよ。

ウ「思ひ倦じて」

① 悲しくなつて  
② めまいがして  
③ 心配になつて  
④ いやになつて  
⑤ 考えあぐねて

— 16 —

A 2 〈国〉

— 15 —

A 2 〈国〉

一般選抜

一般選抜英語

一般選抜日本史

一般選抜世界史

一般選抜生物

一般選抜化学

一般選抜数学

一般選抜国語

問七 ――線部D「それによされて」の「それ」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **36**。

① 家中の人々が、男と娘との関係を察する前に、男が母親のところに月見に来て、琴を弾くふりをして娘に近づくこと。  
② 男が、娘が他の男に心奪わしめたことを察する前に、娘が母親のところに月見に行き、琴を弾いて、居留守をつかうこと。  
③ 母親が、娘と男が忍び会う計画を察する前に、娘が母親のところに月見に行き、琴を弾いて機嫌を取ること。  
④ 家中の人々が、男が娘のもとに来たことを察する前に、親族の女が母親のところに月見に行き、琴を弾いて時間をかせぐこと。  
⑤ 母親が、男の娘への悪心を察する前に、男が母親のところに月見に来て、琴を弾いて気に入られようとする事。

問八 I の和歌の説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **37**。

① 琴の音が、合わせてうまく合わないことがあるのになぞらえ、あなたと対面しても、邪魔が入って結ばれることがなかったと嘆いている。  
② 日常生活で琴の音を聞く機会がめったにないことに重ねて、あなたと忍び会う機会がなかなか訪れないであろうと推測している。  
③ 特別な時に琴を演奏してその音色を聴かせるように、めったに聴くことのできない私の声を心して聴けと呼びかけている。  
④ 見事に調和した琴の音色とは違って、やつのことで対面したあなたにまつたくあての外れた態度をとられたと恨んでいる。  
⑤ 母親のもとで演奏された琴が、合わせてもすぐに外れてしまうような拙い音色であったのは、あなたが母親に氣を取られたからだと憤っている。

問九 ――線部E「親さあはすとも、さやはあるべき」とはどういうことですか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **38**。

① 親が勝手に縁談を持ちかけたとしても、相手を気に入るとは限らないだろうということ。  
② 親が娘の機嫌をとうとうとしたとしても、他の男と結婚させることなどあるだろうかということ。  
③ 親が他の男と結婚させようとしたとしても、言いなりになることはないだろうということ。  
④ 親が他の男と引き合わせたとしても、自分のことを忘れることはないのではないかということ。  
⑤ 親が娘に厳しく接したとしても、他の男と結婚する必要はないだろうということ。

— 18 —

A 2 〈国〉

— 17 —

A 2 〈国〉

国語（前期A方式 1/30）

問十 「平中物語」を説明した次の文章の甲、乙に当てはまる語として、最も適当なものを、それぞれ後の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は、甲が39、乙が40。

「平中物語」は平安時代中期に成立したとされる、作者未詳の歌物語である。全三十九段に「この男」「おなじ男」と記される主人公は、平甲ののこのことと考えられている。また、同時代に成立した歌物語としては「伊勢物語」と、「乙」物語が有名である。

甲 ① 定家 ② 重盛 ③ 貞文 ④ 兼盛 ⑤ 実朝

乙 ① 栄花 ② 平家 ③ 雨月 ④ 狭衣 ⑤ 大和

(国語問題 おわり)

国語（前期B方式）

必答問題

I B 国 語

次の文章は、芥川龍之介と菊池寛の共訳として昭和二年（一九二七年）十一月に刊行された『アリス物語』が、二〇三三年に「完全版」として再刊された際に付された後書きの一節です。これを読んで、後の問いに答えなさい。

解答番号は 1 23。

ハートの女王様が、夏の日一日かかって お饅頭をつくりました。 ハートのジャックがそれを盗んで もち逃げをしました。

『アリス物語』第十一章では、大事件が起こります。ハートの女王がタンセイ<sup>A</sup>だめて作ったお饅頭が何者かに盗まれてしまうのです。ハートのジャックにケンギ<sup>B</sup>がかけられ、王様が判事をつとめる裁判が開かれます。女王様は始終「打首にしろ！」と金切声でわめきたて、ついにはアリス自身が証言台に立たされます——世界でもっとも有名な裁判の一つに数えてもいいかもしれません。

『アリス物語』を含む『小学生全集』は、同時期にアルス社が企画・販売した『日本児童文庫』（全七十六巻）と激しい広告合戦となり、非難のオウシエウ<sup>C</sup>の末、告訴事件にまで発展したことで有名です。両叢書は、その内容の充実ぶりより、裁判にまで至ったスキャンダルによって文学史に名を遺しているといっても過言ではありません。一部では、芥川龍之介の自殺の一因とも噂されました。

アルス社は、北原白秋の弟・鉄雄が代表をつとめる出版社で、白秋自身も『日本児童文庫』の企画に深く関わっていました。

1 2

芥川にとって北原白秋は敬愛する作家の一人でした。あまり知られていませんが、芥川は文筆活動の初期に「柳川隆之介」というペンネームを用いています。これは白秋の「思ひ出」などに感銘を受けた芥川が、白秋の郷里である柳河と白秋の本名である隆吉にあやかって付けた筆名とされています。また、芥川はアルス社ともつながりが深く、芥川の第一短編集『羅生門』は、アルス社の前身である阿蘭陀書房から出版されています。そのから、芥川はどれほど多忙であっても、アルス社（阿蘭陀書房）の執筆依頼だけは断らないようにしていたと言えます。

a b c

『日本児童文庫』の一冊、『支那童話集』の担当を引き受けます。アルス社の依頼を持ってきた友人の佐藤春夫に対しては、「小学生全集」の編集責任は名前を貸しているだけだから、重々言い含んでくれと言付けていたそうです。は、その前年、『日本近代文芸読本』（全五巻、興文社）の編者をつとめ、百名を超す作家の作品から、大アンソロジーを編集したのですが、掲載作家への著作権手続きが不十分だったことから、作家らの批判を浴びるという苦い経験をしたのです。そこに来て、敬愛する作家と親友から、似たような企画に ろ 事が進むようにアルス社に予め許しを請うたつもりですが、残念ながら事態は最悪の方向へと進んでいったのです。『小学生全集』の企画は白秋の逆鱗にふれ、芥川自身も楯玉にあげられてしまいました。

総合型選抜  
公募型学校推薦選抜  
英  
公募型学校推薦選抜  
語  
数  
公募型学校推薦選抜  
学  
生  
公募型学校推薦選抜  
物  
化  
公募型学校推薦選抜  
学  
国  
公募型学校推薦選抜  
語

Queen of Hearts」になぞらえて創作されています。そのマザー・グースを、日本で初めてまとめた訳詩集として発表したが、他ならぬ北原白秋でした（『まどあ・ぐうす』一九二二年、アルス社）。そのなかで、当該の童謡（「アートの女王」の冒頭は次のように訳されています）。

ハアトの女王がお饅頭を作られた。  
夏の日いっぱいカアかった。  
ハアトの兵士がお饅頭を盗んだ。  
みんな持って逃げてった。

白秋訳『まどあ・ぐうす』は、英国の風物を日本の子供たちに聞きなじみのある、身近なものに置き換えながら訳していて、タルトを作っていたはずのハアトの女王も「お饅頭」を作っていたことになっています。この『まどあ・ぐうす』は、白秋を敬愛していた芥川が目にも止まっていたはずで、『アリス物語』でも同じ訳語が使われているのは、偶然の一致でしょうか。アルス社との裁判沙汰のカチュウで、白秋訳の「ハアトの女王」を意識しながら、芥川がお饅頭（タルト）をめぐる裁判のシーンに向き合っていたとしたら……

芥川とアリスの関連で、もう一つ紹介したいのが、芥川の「トランプの王（仮）」という作品（戯曲）です。生前に公に発表されたものではありませんが、「不思議の国のアリス」あるいは「ハアトの女王」を明らかに意識したものです。一九二二年の暮れ、芥川の友人の一人、小穴隆一が脱疽のために入院し、その見舞いの訪問録（原稿用紙を束ねたもの）にかきつけてあった作品です。ちょうどクリスマスにあたる十二月二十五日の訪問でした。戯曲の中にはトランプの王様、女王様、兵卒が登場します。

（中略）

残念ながら戯曲はここでお終いで、最後に「未完」と記されています。このとき、芥川が見舞った小穴は、右足を切断する大手術を受けることになり、芥川は二度の手術に立ち会っています。訪問録には友人らの見舞いの言葉や句などが寄せられるとともに、療養中の小穴の心情などが綴られ、クリスマス前日には、友人らがクリスマス飾りで病室を彩ってくれたことが報告されています。この未完の戯曲「トランプの王（仮）」には、クリスマスぐい、敵味方もなく、仲良く愉快に過ごそうという想いが溢れています。数年後、菊池寛と北原白秋の係争にまきこまれたときにも、芥川は、敵同士となってしまう二人が戯曲のように再び円卓を囲む日を夢見ていたに違いありません。

私個人のお気に入りの場面、「アリス物語」の第九章「まがい海亀の物語」についても、ここでふれておきたいと思っています。海亀のスープが高価だったために開発された、「まがい」海亀スープをもじってルイス・キャロルが生み出した「まがい海亀」は、いつも哀そうにしています。「彼の身に何があつたの？」とアリスが尋ねると、グリフォンは「みんなぜんぶ、あいつの頭の中でしか起こってないことさ。悲しいことなんか、何ひとつ起こってないのさ。」と教えてくれます。

世の中の悩みの多くに当てはまりそうなく、心に沁みる台詞です。悲しいことなんか、何ひとつ起こってない。全部、あいつの頭のなかでしか起こってないことさ。……そんな優しい台詞を誰かが芥川にかけてくれたら、と考えさせられる場面ですが、残念ながら芥川・菊池訳ではこの場面は翻訳されていません。もし当初の予定通り、芥川が翻訳に携わっていたら、ここをどう訳したのだろう、と思ひながら翻訳にあたりました。

脱落や断絶があるからこそ、私たちはついにしまうのかもしれない。菊池寛は、芥川の晩年、座談会が終わって引き上げる車に乗ったところで、「異様な光」で自分を見つめる芥川に気がついたと言います。「ああ、芥川は僕と話したいのだな」と思いました。そして、それが今生の別れとなってしまったのです。あの時に、車を降りて話を聞いていたら……「チラリと僕を見た彼の眼付きは、一生涯僕にとって、悔恨の種になるだろう」と菊池は述べています。菊池にとっても、芥川が遺していた「アリス物語」を刊行することは重要な仕事だったに違いありません。

それから、忘れてはいけない大切なことがもう一つ。菊池が校正の責任を持ったとはいえ、状況から考えると、芥川・菊池の訳には、下訳を行った名もなき翻訳者がいた可能性が高いでしょう。もしかすると、それも一人ではなく、二人、三人とい

一般選抜  
一般選抜英語  
一般選抜日本史  
一般選抜世界史  
一般選抜生物  
一般選抜化学  
一般選抜数学  
一般選抜国語

たかもしれません。その方たちなくして、この『アリス物語』は は ことはなかったことでしょう。言い換えれば、芥川・菊池訳の間にある「は」こそが『アリス物語』の要だったとも言えます。（中略）完全版として『アリス物語』をあらためて送り出すことにしたのは、今となれば名前が分からなくなったしまった翻訳者たちを含め、関わった人びとが作品と真摯に向き合って紡いだ言葉を現代の読者に届けたいと願ったからです。

（澤西祐典「文案たちのアリス―お饅頭、はどこからやって来たか？」による）

注1 『アリス物語』イギリスの作家・詩人・数学者のルイス・キャロル（一八三二年―一八九八年）が一八六五年に刊行した『不思議の国のアリス』の翻訳。一九二七年七月に急逝した芥川が多少手を付けていたものを引き継いで、菊池寛が完成させたという。

注2 告訴事件⇒出版に先立つ予約獲得において互いに優位に立とうとする広告合戦が激化し、昭和二年五月、『日本児童文庫』発行元のアルス社が、『小学生全集』の共同刊行元である興文社・文藝春秋社を、虚偽の風聞を流布したとする信用毀損妨害で告訴するに至った。

注3 芥川龍之介の自叙『昭和二年（一九二七年）七月二十四日、自宅で睡眼業の多量摂取による。』

注4 『思ひ出』北原白秋が明治四十四年（一九一一年）に発表した詩集。白秋の郷里福岡県柳川市の水郷柳河の思い出を描いた作品を収録している。

注5 『羅生門』大正六年（一九一七年）刊行。

注6 支那⇒中国に対しての古い呼び名。

注7 小穴隆一⇒洋画家・随筆家・俳人（一八九四年―一九六六年）。脱疽は体内組織が局所的に死に至り、正常な機能や形状に障害が発生する病。

注8 中略部分に問題文原文では戯曲の引用があり、冒頭に小穴への献辞が置かれ、小穴が入院していた東京順天堂病院の病室を舞台に、患者を見舞って日頃は敵同士のタイヤ・ハアト・スベイド・クラブの王、女王、兵卒が一室に会する場面が描かれている。

注9 グリフォン⇒身体の上部分が鷲、下部がライオンの形状をしている伝説上の生物。前の「まがい海亀」と共に、『不思議の国のアリス』に登場するキャラクター。

問1 ～～線部A～Eの漢字と同じ漢字を含むものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。

解答番号は 1 ～ 5。

A タンセイ

① 瑞々しい味わいのタンサイの絵画。  
② タンテキに意見を陳述する。  
③ ゴウタンな振る舞いで他を圧倒する。  
④ 書類をタンネンに調査する。  
⑤ ガイタンに堪えない浮薄な風潮。

B ケンギ

① セイケン<sup>み</sup>の御代。  
② ケンゴな守備体制。  
③ 才色ケンビの人。  
④ 彼は今日ケンギが良い。  
⑤ 重要アンケンに取り組む。

C オウシユウ

① 鳥合のシユウ。  
② シユウアクな外観。  
③ シユウジツ執筆に従事する。  
④ 事実と方法論のシユウセキ。  
⑤ 巨額のホウシユウを得る。

D キョダク

① トツキョを申請する。  
② ホンキョチに帰還する。  
③ 適材をスイキョする。  
④ キョジョジツツの攻防。  
⑤ 潔くキョシユウを決する。

— 119 — B（選） — 120 — B（選）

国語（前期B方式）

総合型選抜  
公募高等学校推薦選抜  
英  
公募高等学校推薦選抜  
語数  
公募高等学校推薦選抜  
学  
公募高等学校推薦選抜  
物  
化  
公募高等学校推薦選抜  
学  
国  
公募高等学校推薦選抜  
語

問一  
——線部 i、ii の漢字の読み方として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。  
解答番号は 6・7。  
i 悔恨 (1) かいね (2) ぶこん (3) かいこん (4) ぶこつ (5) かいらし  
ii 真摯 (7) しんげき (2) しんけん (3) しんじつ (4) しんしゅう (5) しんし

E  
ガチユウ  
(5) カダイ評論は響感を招く。  
(2) ジョウイカタツの弊害。  
(3) 広がるセンカに巻き込まれる。  
(4) ザイカを金品で償う。  
(5) カホウは寝て待て。

問二  
——線部 i、ii の漢字の読み方として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。  
解答番号は 8・9・10・11。  
i 龍愛 (1) 龍愛 (2) 過失 (3) 苦難 (4) 恩義 (5) 実益  
ii 寵愛 (1) 一片 (2) 一席 (3) 一葉 (4) 一乗 (5) 一枚  
は (1) 迅速に (2) 対等に (3) 穩便に (4) 平等に (5) 協力的に  
に (1) 妄想を逞しくして (2) 追憶に浸って (3) 無意味な想像をして (4) 対象に共感して (5) 空想に依存して  
は (1) 賞賛を得る (2) 日の目を見る (3) 褒貶に曝される (4) 名文となる (5) 実害を被る

問四  
——線部 a、b、c の漢字の読み方として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。  
解答番号は 12・13・14・15・16・17。  
a (1) 龍愛 (2) 過失 (3) 苦難 (4) 恩義 (5) 実益  
b (1) 一片 (2) 一席 (3) 一葉 (4) 一乗 (5) 一枚  
c (1) 迅速に (2) 対等に (3) 穩便に (4) 平等に (5) 協力的に  
d (1) 妄想を逞しくして (2) 追憶に浸って (3) 無意味な想像をして (4) 対象に共感して (5) 空想に依存して  
e (1) 賞賛を得る (2) 日の目を見る (3) 褒貶に曝される (4) 名文となる (5) 実害を被る

— 117 — B (選)

一般選抜  
一般選抜英語  
一般選抜日本史  
一般選抜世界史  
一般選抜生物  
一般選抜化学  
一般選抜数学  
一般選抜国語

問五  
——線部甲「あやかつて」、乙「逆鱗にふれ」の意味として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。  
解答番号は、甲が 18、乙が 19。  
甲 「あやかつて」  
(1) 真似をした  
(2) 人に対する尊敬の意を言葉で明確に表現すること。  
(3) 憧れの相手に対して思いの丈を綴ること。  
(4) 憧れの人に影響され、同様の状態になるよう願うこと。  
(5) 尊敬する相手の影響下にあることを強く主張すること。  
乙 「逆鱗にふれ」  
(1) 誰彼かまわず神経を逆なですること。  
(2) 目上の人を激怒させること。  
(3) 相手に不安を感じさせ気を揉ませること。  
(4) 周りの人に不満を抑えられないような心持を抱かせること。  
(5) 相手が被害妄想に陥るような心情を抱かせること。

— 118 — B (選)

問六  
——線部 1「重々言い含んでくれと言付けていた」とありますが、誰が誰に、誰に対して何をしよう、言付けたのですか。それを述べたものとして最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。  
解答番号は 20。  
① 芥川が佐藤春夫に、北原白秋およびアルス社に対して、芥川自身は文藝春秋社側の企画には深く関わりたくないのに親友菊池寛から依頼され困っているという窮状を訴えてほしい、と言付けた。  
② 佐藤春夫が北原白秋に、芥川が良好な関係を保ってきたアルス社に対して、芥川が文藝春秋社側の『小学生全集』に形だけではあっても関わっていることを弁解してほしいと言っている、と言付けた。  
③ 芥川が佐藤春夫に、北原白秋およびアルス社に対して、芥川自身は文藝春秋社側の企画には深く関わっておらず、白秋とアルス社を軽んじるようなことはしていないということを充分伝えてくれるように、と言付けた。  
④ 菊池寛が佐藤春夫に、北原白秋およびアルス社に対して、親友芥川をかばうため、文藝春秋社側の企画には芥川は名前を貸しているだけで深く関わっていないのだということを重々取りなしてくるよう、と言付けた。  
⑤ 佐藤春夫が菊池寛に、北原白秋およびアルス社に対して、親友の芥川がアルス社と文藝春秋社との板挟みとなって苦勞しないよう文藝春秋社側の企画には芥川は名前を貸すだけで深く関わらないことを言い訳するように、と言付けた。

— 115 — B (選)

180





国語（前期B方式）

て再現し、自らコントロールできるからである、ということになる。

そのように考へるとき、ペーコンの発想はもはやアリストテレス的な「自然の模倣」ではなく、「自然の支配」を可能と見なすものとして捉えられる。(⑤)「自然を人間よりも優れたものとして模倣する態度は、自然を自らの関心に従って操作し、管理しようとする態度へと、転換する。」

こうした自然観の変化は人間の生き方にどのような変化を与えたのだろうか。

前述の通りアリストテレスは、自然を観察すること、彼の言葉で言えば「観想」が技術に f は X すると考えていた。それは、観想が技術のために求められる、いわば技術を発展させる手段として求められる、ということを意味するわけではない。なぜなら彼にとって、観想はそれ自体で価値のある行為であり、それ以外の何かなために役立てられるものではないからだ。アリストテレスの哲学において、観想とは神の永遠不変の活動にサンヨすることであつて、観想に即した生活をするのが自足した幸福な生き方である。それを技術に活かせるかどうかは、観想そのものの価値と何ら関係がない。

これに対してペーコンは、こうしたアリストテレスの考え方に与しない。自然を観察する人間の認識は、常に間違つたものであり得るのであり、だからこそ技術的な実験装置によって自然を解明するべきだ。それを「精神と宇宙」の「結婚」にたとえるペーコンは、科学と技術の営みが目指すものを次のように表現する。

我々は精神と宇宙とが結ばれる部屋をば、婚事に係わる神の善意によつて、花を散らし飾り立てたものと認めるのである。 注6 頌婚の歌は、人々のキユボウと儺れな状態をいくぶん阻止しかつカンワする、人類への援助と諸発見の一族とが、この結婚から生まれることの願ひにしたいと思う。

(中略) ここには、科学の価値が技術への応用のうちにあり、そして技術の目的が幸福の実現にある、というペーコンの考えが反映されている。

人間が自然を支配するのは、人類に幸福をもたらすためである。こうしたペーコンの思想がその後の思想史に与えた影響は計り知れない。

実験に基づく自然の探究を重視する態度は、一七―一八世紀に隆盛した啓蒙思想へと結実する。これは、人間が理性の力によつて自然にレインクした状態を乗り越え、社会を進歩させることができると考える思想運動である。一八世紀の後半には産業革命が起こり、科学と技術は相互に一層キンミツに運動することになる。ヨーロッパ諸国の産業の工業化が進められ、人類のエネルギー消費量も飛躍的に増大することになった。

しかしその福結が、必ずしも幸福だけをもたらすわけではないということを、やがて人類は思い知ることになる。

(中略)

二〇世紀に出現した全体主義 注8 は、戦争の遂行のために国民の私生活全てを動員し、私権を制限し、個人の利益よりも国家の利益を優先するものだった。国家は、その国の経済活動を全体として管理・調整しなければならなくなると同時に、国民の f に働きかけ、自ら体制に協力するよう煽動しなければならなくなった。このような体制を作り上げるために、権力の側に属する人間はかつてないほど計算的な理性を働かせなければならなかった。そのために情報通信技術をはじめとするさまざまな新しいテクノロジーが活用されるようになった。

技術は人類に幸福をもたらすはずだった。技術を発達させればさるほど、人類は悲惨さを免れるようになるはずだった。しかし、二〇世紀に明らかになったことは、技術がむしろ人類に対して未曾有の破局をもたらすということだった。

(「戸谷洋志」『未来倫理』による)

注1 アリストテレス『古代ギリシャの哲学者』(前三八四年―前三二三年)。  
注2 レオナルド・ダ・ヴィンチ『フィレンツェ共和国 (現イタリア) の芸術家』(四五二年―一五一九年)。発明を始め、多くの分野での活動が知られる。  
注3 フランシス・ペーコン『イギリスの哲学者、神学者』(一五六一―一六二六年)。  
注4 ガリレオ・ガリレイ『イタリアの哲学者、数学者』(一五六四年―一六四二年)。  
注5 宇宙＝宇宙空間 (outer space) の意味ではなく、「宇」は空間、「宙」は時間を示し、存在している事物などすべてを含む世界のことを指す。  
注6 頌婚の歌は「頌」は祝うこと、褒めたたえること。婚姻を祝う歌。  
注7 啓蒙思想は十六世紀に起こり、十八世紀後半まで隆盛したヨーロッパの思想運動。伝統・迷信・既成の権威の打破を目的とした。  
注8 全体主義は個人を全体を構成する部分とみなし、個人は全体の発展・成長のために活動すべきであるという思想。

問一 総部A～Fの漢字と同じ漢字を含むものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。  
解答番号は 1 ～ 6 。

A ケイキ 1

① スウキな運命をたどった人物。  
② 会社の再建をキトする。  
③ 実験がキドウに乗る。  
④ キカガク的なデザインだ。  
⑤ キエイが視界をよきった。

B サンヨ 2

① 研究のシヨサン。  
② サンボウの意見を聞く。  
③ 全員が素早くシユウサンした。  
④ サンダンを考へる。  
⑤ 災害のサンカを被る。

C キユボウ 3

① 国家のコウボウの歴史を学ぶ。  
② 仕事ハンボウになる。  
③ タイボウ生活を送る。  
④ ボウガの境に達する。  
⑤ ケンボウをめぐらす。

D カンワ 4

① カンメイな説明に納得する。  
② 航路をオウカンする。  
③ ユウカンな生活を夢見る。  
④ 実態をカンアンしての計画。  
⑤ カンキユウ自在の投球。

E レインゾク 5

① レイテンを守って儀式を行う。  
② 有名なレイホウに登る。  
③ レイラクした貴族の子孫。  
④ レイシヨのお手本に学ぶ。  
⑤ 資産家のレイソクを婿に取る。

F キンミツ 6

① キツキンの課題をこなす。  
② キンチヨクな性格の人。  
③ キョウキンを開いて語り合う。  
④ 二人はシンキンな間柄だ。  
⑤ 問題を起してコウキンされる。

問二 a、f に入る最も適当な言葉を、次の①～⑧の中から一つずつ選び、それぞれマークしなさい。同じ記号は一度しか選べません。解答番号は、  
が 9、d が 10、e が 11、a が 7、f が 12、  
が b、c が 8、  
① あくまでも ② むしろ ③ 例えば ④ したがって ⑤ あたかも ⑥ しかし  
⑦ ところで ⑧ 中でも

問三 い に に入る最も適当な言葉を、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。

- 解答番号は、  
い ( ① 観察 ② 肯定 ③ 支配 ④ 解放 ⑤ 定義 )  
ろ ( ① 収斂 ② 達成 ③ 反映 ④ 問題 ⑤ 停滞 )  
は ( ① 勝利 ② 即応 ③ 追隨 ④ 到達 ⑤ 先行 )  
に ( ① 生活 ② 感情 ③ 財産 ④ 環境 ⑤ 目標 )

問四 線部甲「反駁する」、乙「未曾有」の意味として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は、甲が 17、乙が 18。

- 甲「反駁する」  
① 認める  
② 褒めちぎる  
③ なみする  
④ やり直す  
⑤ 論じ返す
- 乙「未曾有」  
① とても危険なこと  
② 過去にない規模のこと  
③ 一度もなかったこと  
④ あり得ないはずのこと  
⑤ 能力の追いつかないこと

問五 次の文章が入る最も適当な箇所を、問題文中( ① )～( ⑤ )の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 19。

ペーコンはこのような発想を根本的に変更した。彼によれば、自然の本質は、人間が自然に対して積極的に働きかけ、その結果を検証することによって、初めて解明される。そうした働きかけこそ「実験」に他ならない。

問六 解答番号は X に入る最も適当な一文を、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。

- ① 自然は人間にとってただ観察されるだけの対象ではなくなり、積極的に関与すべき対象に変化したのである。  
② 観察する対象から管理する対象への変化は、人間と自然との距離感をはかり難いものとしてしまったのである。  
③ 人間は自然を操作する手段を身に付けたと思ひ込み、技術を発展させた結果、自然に逆襲されることになった。  
④ 自然は人間に管理される対象に陥ってしまい、人間にとって利用する価値のある存在ではなくなってしまった。  
⑤ 自然は人間を圧倒的に凌駕する存在ではなくなり、人間によって支配され得る対象へと変わってしまったのである。

問七 ……線部「ペーコンは、こうしたアリストテレスの考え方に与しない」とありますが、ペーコンの考えとはどのようなのですか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 21。

- ① 技術を向上させることによってこそ自然との調和は可能となるのであって、アリストテレスの「観想」では不十分であるという考え。  
② 自然を「観想」しても、その認識は間違っている場合もあるのだから、アリストテレスの方針を継承するためには、実験による解明が不可欠であるという考え。  
③ 人間が自然を観察すること自体に意味があるわけではなく、科学技術を発達させることによって、人々の生活に寄与してこそ意味を持つのであるという考え。  
④ 科学技術の発達によってこそ人類の幸福はもたらされるのであるから、自然は観察の対象ではなく、支配し、排除すべき存在であるという考え。  
⑤ 科学は人間の幸福に貢献してこそ意味を持つものであるのだから、観察の対象である自然と峻厳に区分したうえでの利用が必要不可欠であるという考え。

問八 問題文の内容と合致しないものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 22。

- ① 自然の摂理をしっかりと把握していなければ技術を十全に行使することは不可能であるので、自然の観察は技術の行使のために必須であるという古代ギリシャの思想は、十五世紀に至ってもなお有効と考えられていた。  
② 鳥の羽の構造の観察から空飛ぶ機械の作製の実現を目指すという発想の根幹にある思想は、自然は技術によって再現でき、コントロールできるといふ自然観とは交わるものではない、相容れないものである。  
③ 技術は古代ギリシャ以来、近代に至るまで、一貫して人間が生活を営むうえで重要な役割を果たし続けているが、その技術を行使する前提となる思想に関しては、大きな異なりが存在している。  
④ 自然を観察することそれ自体に意味があり、技術はその過程での副産物であるという思想が信頼されていた時代にあつては、技術を行使してなにかを生み出すという発想が育まれることはなかった。  
⑤ 啓蒙思想に結実することとなる近代以来の自然観は、科学技術を発達させ、人類の生活を著しく向上・進展させる土壌となったが、後世に至って、思いがけない破綻をもたらすことにもなった。

国語（前期B方式）

選択問題

III

次の文章は、狂言の心得について書かれたものです。これを読んで、後の問いに答えなさい。解答番号は **1** ～ **16**。

狂言の教へまうちありと言へども、いにしへは二十余りまで大様に、いかにもとり広げたるやうにして、二十二三のころ声も調子にかかりてより、心を入ると言へど、今の世は、人の心も短くして、昔のごとく教へては後よからむことをまたずして、人々下手に言ひなし、見なしするゆゑに、とりなほすことなりがたし。十三まではいかにも細かに面白く思ふやうに教へ、十五六より声かはる時分、主もおもはゆくなきやうにこそ少なく素直にすらりとすべし。声もたち前髪も落ちてより、また細かに心を言ふべし。稽古は強かれ、情誼は弱かれと言ふ。稽古も、あまり純明すれば芸すくむ。さは言へど油断すべからず。稽古に精を入れ、煩ふとも許すべからず。この道のことにて死なむは本望ならずや。侍は子にひけの付くことは死を勤むる。恩愛の追ひづれかをろかならむ。生きて恥をさらさむより、名をあげむことと思ふべし。総じて狂言は若き時は相応しがたし。親の油断にて子を下手になすと我が家代々申し渡す。とかく教へ大事なり。

狂言はまづ業をよく流通し、詞を自在に覚え、行住坐臥自由にして、大かた我と心の合点行く時分に習を教へ、心と言ふべし。業より心の入るやうにとはこれなり。業も自由ならず詞も覚えざるに、はや習を教へ、心と言へば、身すくみまどふて、業も自由ならず心もゆかずして下手になる。とかくとかく生まれつきたる相応、時分を考へ、教ふべし。七字の大事に「身のほどを知れ」と言ふもこれなるべし。たとへば、時分の花、時の花と言ふことあり。また幼い者に水をよく泳ぐあり。その者はこの道理にて水によく泳ぐといささか心は知らざれども、鍛錬にてよく泳ぐ。よくよく泳ぎてより道理を知れば、世話に、鬼に金撮棒と言ふことくなり。智ある人は、水はこの道理にて泳ぐと心は知れども、鍛錬せざれば沈むがごとし。出家も、諸経、誦文、作法、よく学して得道すればよし。いづれも覚えずして得道すれば諸経は足代にて得道すべきためと言ひて無学の僧になると慈眼大師も仰せられし。よろづの道もかくあるべしや。春日岡の僧止の仰せられしは、いにしへは、人、学に進め

ども、法、学を進めず。今は学、人を進むれど、人、学に進まずと。この道も同じ。昔は執心する弟子多くあれども師教へず。今の世は師あれども執心する者なし。予若かりし時まで芸する人少なと言へど、弟子に上手ありし。今は人多くて弟子に上手稀なり。師か弟子に咎あり、我が身を顧みると言ふこと、もつともこの道にかなひたるか。生まれつかざること偽物の偽たるべき。昔より上手あまたありと言へど同じことにあらず。よき道もあまたあると見えたり。いづれ一様にはあるまじ。歌に、

A 分け登る麓の道は多けれど同じ雲居の月をこそ見れ

この心なるべしや。天地同根万物一体と。性に別性なし、器物にかはりありとやらむ。広く尋ぬべし。幼い時教へたる業は役に立たず。声のかはりに顔かたちも違ひぬれば業もかはるべし。二十よりうちに詞をよく覚ゆべきこと肝要なり。幼い時覚えたることは年寄りても忘れずと言へり。

心は腰にありと言ふ。心定まらざれば氣あがり、よろづ忘れて我ならず、業もうきたつものなり。心ここにあらざれば、見れどもしかも見ず、聞けどもしかも聞かずと、唐の文にも見えたり。されば心を沈めよと侍り。

心を沈むると着すれば沈み過る。心は目で使ふ。手は腕にて使ふ。扇子は手足一つなり。腰すわらねば弱く見ゆる。心を入ると言ふを意気込みと思ふゆゑ力む。心はその背中にとじまつてその形を得ず。この段むかしきことを多し。おろそかに心得べからず。

（「わらんべ草」による）

- 注 1 前髪も落ちて＝成人すること。元服をすると「前髪」を剃り落とす。
- 注 2 七字の大事＝七字で説かれる教え。
- 注 3 世話に、鬼に金撮棒＝ことわざに「鬼に金棒」。

B（選）

— 102 —

- 注 4 足代＝得道するための足がかり。
- 注 5 慈眼大師＝天台宗の僧である天海（一五三六年頃～一六四三年）。
- 注 6 春日岡の僧止＝不明。著者の大蔵虎明と交流のあった人物。

問一

～線部1～3「見」について、次の（1）・（2）の問いに答えなさい。

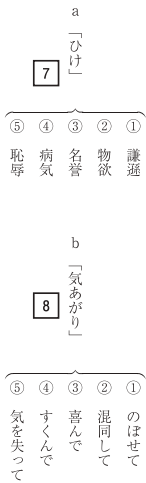
（1）活用の種類として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑥の中から一つずつ選び、マークしなさい（同じ記号を何度選んでも構いません。解答番号は、1が **1**、2が **2**、3が **3**。

- ① マ行四段活用動詞
- ② マ行上一段活用動詞
- ③ マ行上二段活用動詞
- ④ ヤ行四段活用動詞
- ⑤ ヤ行下一段活用動詞
- ⑥ ヤ行下二段活用動詞

（2）活用形の説明として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑥の中から一つずつ選び、マークしなさい（同じ記号を何度選んでも構いません。解答番号は、1が **4**、2が **5**、3が **6**。

- ① 未然形（または未然形の一部）
- ② 連用形（または連用形の一部）
- ③ 終止形（または終止形の一部）
- ④ 連体形（または連体形の一部）
- ⑤ 已然形（または已然形の一部）
- ⑥ 命令形（または命令形の一部）

問二 線部 a「ひけ」、b「氣あがり」の意味として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は、 **7** ・ **8**。



B（選）

— 99 —

B（選）

— 100 —



|       |           |   |           |   |           |   |           |   |           |   |           |   |           |   |   |           |   |      |        |         |         |        |        |        |        |
|-------|-----------|---|-----------|---|-----------|---|-----------|---|-----------|---|-----------|---|-----------|---|---|-----------|---|------|--------|---------|---------|--------|--------|--------|--------|
| 総合型選抜 | 公募型学校推薦選抜 | 英 | 公募型学校推薦選抜 | 語 | 公募型学校推薦選抜 | 数 | 公募型学校推薦選抜 | 学 | 公募型学校推薦選抜 | 物 | 公募型学校推薦選抜 | 化 | 公募型学校推薦選抜 | 学 | 国 | 公募型学校推薦選抜 | 語 | 一般選抜 | 一般選抜英語 | 一般選抜日本史 | 一般選抜世界史 | 一般選抜生物 | 一般選抜化学 | 一般選抜数学 | 一般選抜国語 |
|-------|-----------|---|-----------|---|-----------|---|-----------|---|-----------|---|-----------|---|-----------|---|---|-----------|---|------|--------|---------|---------|--------|--------|--------|--------|

問三 Aの和歌は、ここではどのようなことを意味していますか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **9**。

- ① 稽古することは山に登るのと同じことであり、導いてくれる存在が必要であるということ。  
② 能力や才能に応じて稽古の方法は数多くあるが、最終的な到達点は同じであること。  
③ 弟子は多くいても、師が教えるようにしなければ皆同じような芸しかできないということ。  
④ よい方法がたくさんあっても、しかるべき師にたかなければ目標に到達できないということ。  
⑤ 芸の到達点は月のように遠かに離れていて、山のような高みに登ってもたどりつけないということ。

問四 ―線部1「身のほどを知れ」と言ふもこれなるべし」とはどういうことですか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **10**。

- ① 「身のほどを知れ」というのは、自分の能力以上のことを身に付けようとするなどということ。  
② 「身のほどを知れ」というのは、理論的に物事を理解することが必要であるということ。  
③ 「身のほどを知れ」というのは、自分の身分にふさわしい道を選択すること。  
④ 「身のほどを知れ」というのは、自分の資質や年ごろに合った方法で修得するのがよいということ。  
⑤ 「身のほどを知れ」というのは、生まれながらの環境に合わせた教え方が有効であるということ。

問五 ―線部2「いにしへは、人、学に進めども、法、学を進めず。今は、学、人を進むれど、人、学に進まず」とはどのようなことですか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **11**。

- ① かつては学問を修めようとしても推奨されなかったが、学ぶ環境が整った今は学ぼうとする人がいないこと。  
② 昔は学問を志す人に対して法的な制度が十分でなかったが、今は学問を推進するので学ぶ人が増えたこと。  
③ 古くは人に学問を進められて志す人が多かったが、最近では人に学問を進めても応じる人が少ないこと。  
④ 以前は学問を修めようとする人が少なかったが、今日では学問を人にも勧めるようになっていくこと。  
⑤ 古い時代の学問は盛んであったが不完全であり、今は学問体系は整ったが人の心が学問から離れてしまっていること。

問六 ―線部3「幼い時教へたる業は役に立たず」とあるのはなぜですか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **12**。

- ① 幼い時に教えられたことなど覚えていないので、成長した後の芸につながるから。  
② 幼い時には年齢に応じたことを教えられるので、身体の成長とともにふさわしくなるから。  
③ 幼い時には教えられたことを正しく理解できていないので、ほとんど身につかないから。  
④ 幼い時には甘やかされて教えられるので、成長する前に悪い癖がついてしまうから。  
⑤ 幼い時に教えられたことは、本人が成長してうまく生かせなければ意味がないから。

問七 ―線部4「心ここにあらざれば、見れどもしかも見ず、聞けどもしかも聞かず」について説明した次の文の **13** に入る最も適当な助字を、後の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **13**。

この言葉は「大学」にある「心不<sub>レ</sub>在焉、視 **13** 不見、聴 **13** 不<sub>レ</sub>聞」によっている。

- ① 于 ② 於 ③ 而 ④ 矣 ⑤ 兮

問八 「わらんべ草」について説明した次の文章の **14** に入る最も適当なものを、それぞれ①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。解答番号は、 **14** が **14**、 **15** が **15**、 **16** が **16**。

「わらんべ草」は江戸時代の狂言役者である大藏虎明の著作である。虎明は、室町時代の能役者である **14** からの影響を大いに受けており、……線部「稽古は強かれ、情識は弱かれ」は **14** の『風姿花伝』に「稽古は強かれ、情識はなかれとなり」とあるのによっている。意味としては「稽古は厳しくあれ、 **15** 」ということである。また、年齢による稽古の心得についても、虎明は『風姿花伝』を踏まえている。『風姿花伝』では、二十四、五歳が「芸能の定まる始め」であるとし、この頃の年齢による「一時的な美しさを」「初心」と称している。「初心忘るべからず」は **14** の『花鏡』にある言葉である。現代では「始めた頃の新鮮な気持ちを忘れてはいけない」という意味で使われることが多いが、『花鏡』には「時々の初心」「最後の初心」も「忘るべからず」と言っており、「初心」は必ずしも「始めた頃」のみに当てはまるものではなく、それぞれの修業段階において存在するものとする。この考えに基づくと **14** の「初心忘るべからず」の意味は「 **16** 」ということである。

- 14**  
① 観阿弥 ② 世阿弥 ③ 大工 ④ 出雲の阿国 ⑤ 宗祇



石の作品中に書かれている言葉、例えば「吾輩は猫である」の「苦沙弥先生の台詞などを口にしてしまうことがあるが、ともかくも、漱石の文章は、<sup>5</sup> 暗い味に深く感ずるようになった。

ところで、漱石が書いたものの中に「夢十夜」という小品がある。「自分」が夢に見たことを告白するという設定で、独自の文学境を描いた作品である。その「夢十夜」に、運慶が仁王の像を彫っているところを夢の中で見に行ったことが書かれているが、<sup>6</sup> 目と眼のあたりに見た運慶は、いとも無造作に仁王像を彫りすすめていくので、「自分」はえらく感心させられる。そのくだりはこうである。

「能くあゝ無造作に鑿<sup>（のみ）</sup>を使つて、思う様な眉や鼻が出来るものだな」と自分はあんまり感心したから独言の様に言つた。するとさうさの若い男が、

「なに、あれは眉や鼻を鑿で作るんじゃない。あの通りの眉や鼻が木の中に埋つてゐるのを、鑿と槌の力で掘り出す迄だ。丸で土の中から石を掘り出す様なものだから決して間違ひはない」と云つた。

自分は此の時始めて彫刻とはそんなものかと思ひ出した。果してそうなら誰にでも出来る事だと思ひ出した。それで急に自分も仁王が彫つて見たくなつたから見物をやめて早速家へ帰つた。

道具箱から鑿と金槌を持ち出して、裏へ出てみると、先達ての暴風で倒れた樫を、薪にする積りで、木挽に挽かせた手頃な奴が、沢山積んであつた。

自分は一番大きいものを選んで、勢いよく彫り始めて見たが、不幸にして、仁王は足指<sup>（あしゆび）</sup>になかつた。其の次にも運悪く掘り当る事が出来なかつた。三番目のにも仁王は居なかつた。自分は横へ端から彫つて見たが、どれもこれも仁王を蔵<sup>（くら）</sup>しているのはなかつた。遂に明治の木には到底仁王は埋つていないものと悟つた。それで運慶が今日迄生きている理由も略解<sup>（りやくかい）</sup>つた。（夏目漱石全集〔筑摩書房刊〕から引用し、現代仮名遣いに改めた）

中学生の私が、この文章をどのように読み取ったか記憶は定かでないが、漱石の全作品に描かれたどの場面よりもセンレツな印象を受けたらしく、運慶と仁王の話は長らく脳裏から離れることがなかつた。それだけにどまらな。その後、化学という学問を選びその中で自然との取組<sup>（くみあひ）</sup>み合いを経験するうちに、この話がいみじくも学問における創造のあり方を示唆していることに気がついてきたのである。それはこういうわけなのである。

例えば、水という物質が水素と酸素の化合物であり、その分子式がH<sub>2</sub>Oで表記されることはよく知られている。けれども、その水素と酸素とが実際どのような姿で結合して水という物質を成立させているかということになると、それを自然科学的に百パーセント認識するのは畢竟不可能なのである。すなわち、水のあるがままを自然科学的にとらえることが不可能なのである。<sup>5</sup> 水の絶対的認識は絶対にはあり得ない。ではどうするか。自然科学的認識においては、それゆえ水そのものを直接組上<sup>（くみあひ）</sup>にのせるのではなく、水の模写（モデル）が、例えば水素と酸素おのおのの原子がこのように化学結合し合い、各原子は一つの原子核を中心として電子がこのような状態で存在しているといったふうに、組み立てられる。液体の水は、このようにして組み立てられた水分子が互いに作用し合いながら構成しているとする。これを模写主義、あるいはモデル主義と呼ぶが、自然科学者は多くの場合、まず、この方法によって自然認識を始めるのである。

さて、自然科学的認識において次の段階で行なわれるのは、こうして組み立てたモデルに対して論理的処理（思考を含む）をほどこすことである。モデルとその論理的処理、これによって現象を解釈するための情報が得られる。そうして、この情報を土台にして理論が創られ、あるいは法則が発見されるわけである。

ところで、自然科学者は自然を認識する方法として実験を行なうが、その実験結果はAという自然科学者が実験しても、Bという自然科学者が実験しても、何ら異なるところがないのはもちろんである。ところが実験結果の解釈という点になると、そうとは言い切れない。AとBとの解釈がまったく異なるのはあり得ることだし、現に自然科学の世界において、それは日常茶飯事なのである。

対してほどこす論理的処理の違いも、解釈の差異につながってくる。そうすると、得られる情報も千差万別で、そこから理論の違いが生まれてくるわけである。

してみると、Aの立てた理論とBの立てた理論と、どちらがより真理に近いのか、どちらにより普遍妥当性があるかを決定づけるのは、結局、組み立てたモデルをくらべて、どちらがより本物の自然に近いものを模写したかということ、どちらの論理的処理がよりの確であったかということにかかってくる。なかでも、認識の出発点であるモデルの組み立ては理論の広がり<sup>（ひろがり）</sup>に決定的な影響を与えるので、自然科学者は自分が設定したモデルを凝視し、「自然はこんな簡明な姿をしているであろうか」、あるいは「こんな複雑な姿をしているのか」と、常に点検をくり返さなければならない。これは非常に難しいことである。その難しさは到底筆舌に尽くし難い。まことに自然科学者各人の創造する理論のシカツの分かれ目は、この困難をどこまで克服できるかにかかっているといつてもいいくらいである。

そこで運慶と仁王像の話にもとめる。

運慶が仁王を彫る手つきはいかに無造作であり、荒削りであり、無遠慮であつたが、そのように見えるのは、最初から木の中に埋まっている仁王を掘り出すかのような自然な、無理のない創造であつたからにはかならない。自然科学における創造の理想的な姿も、かくあらねばならない、と私は思う。自然科学者は、モデルの組み立てにおいても、その論理的処理においても、無理があつてはいけな。極力不自然さを排さなければならない。さもなければ観測結果に対する解釈は歪み、意味のない情報<sup>（けいほう）</sup>を針小棒大<sup>（はりこぼうだい）</sup>に受け取り、逆に、重要な情報を黙殺し、あけくははきわめて不自然な感じを与える、力<sup>（ちから）</sup>でねじ伏せたようなさくさくとした理論を構築してしまう結果になリかねないのである。そのような理論には、運慶が彫る仁王のような創造性は<sup>（さいぞうせい）</sup> 現われな<sup>（あらわ）</sup>ないに違いない。

私は漱石の『夢十夜』の中のこの小品を、このように味わうようになった。以来、他の自然科学者が発表した理論に触れるたびに、「これは運慶の仁王のような感じのものか」という点に留意することにした。化学反応に関する私の理論も、當時出されていた理論に接して「運慶の仁王」のような感じを受けていたとしたら、生み出されなかつたはずである。（中略）。

歴史を学び、文学に親しんだことは、自然科学に直接役立ったのではないにしても、漱石のこのような影響を思うにつけ、いろいろな意味で私の学問に対する姿勢に関与していることを、振り返つて気づかされるのである。人間、学ぶことに無駄なものは何も含まれていない。学んだことの何が、後になつてものをいうかわかつたものでない。それゆえ、広く学ぶことが大切になつてくるのである。

（福井謙一「広く学ぶ心」による）

注1 前にも書いておいた通り『本文に先立つ箇所』に「私の両親は私たちに一度たりとも『勉強しろ』という言葉は放つたことがない」とあることを踏まえる。

注2 県立の奈良高等学校からつて奈良県に存在した学校。高等女学校は、現在の中学一年、高校二年に相当する女子の中等教育機関である。

問一 ― 線部 a イ e の漢字と同じ漢字を含むものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。  
解答番号は 1 5。

a スンカ

- ① カメンを着けて変装する。  
② 光線がプリズムをトウカする。  
③ 量産を拒むカク型の作家。  
④ ヨカを語学修得のために使う。  
⑤ 原材料費を小売価格にテンカする。

b ゴウコシユミ

- ① キンゴウを破る。  
② ドウゴウの士に巡り会う。  
③ 雑誌を定期コウドクする。  
④ 作家としてのコウリョウによる収入。  
⑤ ゴウワンを船舶が往來する。

c ムカンシヨウ

- ① その業務は営業部のカンカツだ。  
② 筆跡をカンテイする。  
③ 条件をカンワする。  
④ カンショウのため海岸線が後退する。  
⑤ 学業のイッカンとして劇場に赴く。

d センレツ

- ① 水道管がハレツする。  
② 式典にレツセキする。  
③ 修行がカレツをきわめる。  
④ 交通事故でレッショウを負った。  
⑤ でさばえにユウレツをつけがたい。

e シカツ

- ① 夏場のカツスイに悩む。  
② 心理的なカツトウを生じる。  
③ カツショクに染められた布。  
④ カツウロから離陸する。  
⑤ 時代をカツシャした小説。

問二 ― 線部 ア イ オ の語句の意味として最も適当なものを、それぞれ次の①～⑤の中から一つずつ選び、マークしなさい。  
解答番号は、アが 6、イが 7、ウが 8、エが 9、オが 10。

ア 「謂ふ」

- ① 意味することば  
② 発音が変化したことば  
③ 古い形のことば  
④ 改まったことば  
⑤ 推測されていることば

イ 「水も濁らさぬ周到さ」

- ① 非常に用心深い様子  
② きわめて準備が整っている様子  
③ とても厳しい様子  
④ 防御を固める様子  
⑤ お金を出すことをいとわな様子

ウ 「片言隻句」

- ① 短いことば  
② さりげないことば  
③ 子どものようなことば  
④ 美しく対をなすことば  
⑤ 浮世離れたことば

エ 「思ひ出した」

- ① 強く主張する  
② 忘れていたことが心に蘇る  
③ 容易なことだと見くびる  
④ 意見を提出する  
⑤ 考えが心に浮かぶ

オ 「針小棒大」

- ① 事実をねじ曲げること  
② 大げさに言うこと  
③ 過小評価すること  
④ 不自然な大きさであること  
⑤ 事実と正反対であること

問三 ― 線部 1 「文学博士福井謙一」と毛筆で大書した」とありますが、このことは筆者のどのような心情を表していますか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つを選び、マークしなさい。解答番号は 11。

- ① 若気の至りではあるが、国語辞書を読むことで、国語科教員を志す気持ちを抑えられなくなった。  
② 出身地の歴史に興味を抱いたことから、歴史学者となることを強く志すようになった。  
③ 歴史学者となるための資格として文学博士になる必要があることに達まきながら気付いた。  
④ 中学校の恩師への尊敬の念が次第に高まるとともに、自分もそうなれると自信を持つようになった。  
⑤ 一生変わらず歴史と国語に関心を持ち続けたという気持ちを心から抱くようになった。



|       |           |   |           |    |           |   |           |   |           |   |   |           |   |      |        |         |         |        |        |        |        |
|-------|-----------|---|-----------|----|-----------|---|-----------|---|-----------|---|---|-----------|---|------|--------|---------|---------|--------|--------|--------|--------|
| 総合型選抜 | 公募型学校推薦選抜 | 英 | 公募型学校推薦選抜 | 語数 | 公募型学校推薦選抜 | 学 | 公募型学校推薦選抜 | 物 | 公募型学校推薦選抜 | 学 | 国 | 公募型学校推薦選抜 | 語 | 一般選抜 | 一般選抜英語 | 一般選抜日本史 | 一般選抜世界史 | 一般選抜生物 | 一般選抜化学 | 一般選抜数学 | 一般選抜国語 |
|-------|-----------|---|-----------|----|-----------|---|-----------|---|-----------|---|---|-----------|---|------|--------|---------|---------|--------|--------|--------|--------|

問四 Q に入りうる語句として適当ではないものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 12。

① 覚えたいではない ② 覚えざるを得ない ③ 覚えるのである  
④ 覚えたいわけではない ⑤ 強く覚える

問五 線部2「こよなく愛読したのは漱石の作品」とありますが、それは筆者にどのような影響を与えましたか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 13。

① いくつかの候補から言葉を選択するとき、漱石作品で代用できるほどに自家言葉中のものとなった。  
② 年齢を重ねて漱石の心情を追体験できるようになったため、世の中の悩みを避けられるようになった。  
③ 長い研究者人生の中で漱石のひとつの作品に出会い、研究上の指針とするまでになった。  
④ 言いたいことがうまく言えないとき、読み慣れた漱石作品から言いたいことを思い浮かべるようになった。  
⑤ 漱石作品の内容には理解が及ばないが、文章表現のうまさには心にしみるようになった。

問六 線部3「運慶が今日迄生きている理由も略解った」とありますが、その「理由」として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 14。

① 「若い男」の言葉に基づいて考えれば、明治時代の木の中には仁王像がいないのでそこから仁王像は彫り出せないことになり、そうであれば、明治時代に運慶を上回る仁王像は造ることができないから。  
② 明治時代の木材がいかに仏像を彫り出すのに適しているとしても、すでに運慶というすぐれた技術者がいないために、その木材を十分に利用できなくなってしまうから。  
③ 主人公は三本の薪を彫って見たにすぎないが、同時代にはすでにそれだけの本数を彫る者も存在しなくなっており、もはや運慶のように根気のある彫刻家はいないことがわかったから。  
④ 主人公は夢で出会った「若い男」から明治時代の木の中に仁王像がいなかったことを教えられ、実際に薪を彫ってみてそのことを実感したから。  
⑤ 木の中に仁王像が埋まっているか否かは時の運であり、明治時代の木にはまたま埋まっていなかったことが薪を彫ってみてわかったから。

問七 線部4「この話がいくじくも学問における創造のあり方を示唆している」とありますが、その説明として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 15。

① 筆者は「夢十夜」を読むことで、木の中に埋まっている仁王像が形の点検を行いつつ彫り出されるように、科学者も現象のモデルについて確認を繰り返す必要があることを知ったということ。  
② 筆者は「夢十夜」を読むことで、認識の出発点であるモデルの組み立てが理論の射程の大きさに関わっていることを学び、モデルの点検に心を砕くようになったということ。  
③ 筆者は「夢十夜」を読むことで、運慶が見物人に作為を感じさせることなく仁王像を彫り出したように、科学的な理論も不自然さを排除したものであるべきだと考えるようになったということ。  
④ 筆者は「夢十夜」を読むことで、運慶は仁王像を自然に彫り出すことができる特殊な能力を持っていたことを知り、科学者も卓越した直感力を持たなければならないと考えたということ。  
⑤ 筆者は「夢十夜」を読むことで、運慶のように超自然的な能力に頼るのではなく、科学者はモデルを絶えず点検して無理のない理論を構築しなければならなかったと考えようになったということ。

問八 線部5「水の絶対的認識は絶対にあり得ない」とありますが、そのことを筆者はどのように捉えていますか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 16。

① 究極的な意味において水を認識することとは、自然科学の範疇とは異なる領域にあるため、水の元となるすべての水素と酸素とをありのままに観察するということはできない。  
② いまだ自然科学には限界があつて、水を構成する水素と酸素の結合のあるがままを事態に即して観察することはできないため、自然科学的認識は実験を通じて行わざるを得ないという問題がある。  
③ 自然科学は、自然をありのままに理解することを目的とするにも関わらず、その目的が達成できないことはすでに理論的に明らかになっているという皮肉な状態に置かれている。  
④ 水という物質を構成する水素と酸素とについて、その結合のありかたをすべてありのままに観察することは不可能なので、自然科学者が自然を認識するときはモデルを通じて行う。  
⑤ 現代の科学をもって水分子をあるがままに認識することは、技術的な理由から未だ不可能であり、科学のさらなる発達を待って初めて可能になると予測されている。

国語（後期）

問九

――線部6「それゆえ、広く学ぶことが大切になってくるのである」とありますが、筆者がどのように考えるのはなぜですか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **17**。

① 筆者が、一見科学と無関係な漱石の作品から、歪みのない理論を構築するヒントを得た例に示されているように、人生において学んだことはすべて有益なものとして還元されるものであるから。

② 人間が学んだことのうち、一休何が役に立つのかをあらかじめ知ることはできないため、社会で成功する確率を少しでも上げるためにはできるだけ多くのことを実際に体験して身につけてゆく必要があるから。

③ 科学的な発見をするためには、筆者が漱石の『夢十夜』を読んで考えたこのように間接的に役立つ内容こそが重要であるが、結果として役に立つことといつどのような形で出会えるかはあらかじめ知ることができないから。

④ 科学者は自己の打ち立てたモデルや理論をたえず多角的に点検しなければならないが、そのような時にこそ、漱石作品などを読んで得られた文学的な素養が多様な発想の源として必要になってくるから。

⑤ 科学者である筆者が小説からヒントを得て、モデルの組み立てや論理的处理に無理があつてはならないことを体得したように、学んだことがどのように生きてくるかわからないので、さまざまなことを学んでおくべきだから。

問十

――線部X「夏目漱石」の小説のうち、次のいゝのは発表順として最も適当なものを、後の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **18**。

- い 吾輩は猫である
- ろ こころ
- は 夢十夜
- に 明暗
- は 三四郎
- ① いゝろゝはゝにゝは
- ② いゝろゝにゝは
- ③ ろゝいゝはゝにゝは
- ④ ろゝはゝいゝにゝは
- ⑤ いゝはゝはゝろゝに

二

次の文章は、俳人の去来（一六五一年生まれ、一七〇四年没）が同門の許六（一六五六年生まれ、一七一五年没）に宛てた書簡の一部です。去来は自作の発句「応々といへたくや雪の門」を許六が評価してくれたことに謝意を示しています。次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。解答番号は **19**、**28**。

A 応々<sup>注1</sup>といへどたくや雪の門<sup>注2</sup>

高評に<sup>注3</sup>、出来のよし、先づ珍重<sup>注4</sup>つまつり候ふ。かつまた、其角<sup>注5</sup>評に「まことの雪の門なり」との評、誠に情なきことに候ふ。拙者不才のことに候へども、古翁<sup>注6</sup>の示教を受け候ふこと総じて十年余、情・質人に及はずと申しながら、いかで雪の門の発句に雪の門ならぬ句をいたし候はんや。この句、はじめには、

B たたかれてあくる間知れや雪の門

C あくる間をたたきつつけや雪の門

といったし候ふ。これとても、雪の門はのがす **a** 候ふ。この句はじめは、道綱の母の「いかに久しきものとかは知る」の和歌より思ひ付き候へども、つまるところ、この歌の魂に落ち候ひて、発句の手柄すくなく、殊には「知れや」と理屈・分別にいたり候ふことを、いかに存じ、再び句作申し候へども、なほ「応々」の句を存じ付き候ひて、句柄各別に存じ、かの句に直し候ふ。ただ拙者は、この句のさびの付きたるやうに存じられて、これを自讃つまつり候ふ。

（許六宛去来書簡）による（

- 注1 応々⇨呼びかけに応えることば。
- 注2 高評⇨他人からの批評に対する敬称。

- 注3 出来⇨できあがること。上出来。
- 注4 珍重⇨ありがたいこと。
- 注5 其角⇨去来・許六と同門の俳諧師（一六六一年～一七〇七年）。
- 注6 発句⇨俳句のこと。
- 注7 「いかに久しきものとかは知る」の和歌⇨『百人一首』にも採ばれている、『拾遺和歌集』巻第十四「恋四」所収の藤原道綱の母の和歌のこと。

入道撰政まかりたりけるに、門を遅く開けければ、立ちわづらひぬと言ひ入れて侍りければ 右大将道綱母 歎きつつ独り寝る夜のあくる間はいかに久しきものとかは知る

問一

――線部1「誠に情なきことに候ふ」と去来が思ったのはなぜですか。その理由として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **19**。

① 其角の薄情な評価に全く同調できなかったから。

② 其角の評には思いやりが感じられなかったから。

③ 其角の発言の意図を理解することができなかったから。

④ 其角の評価は本当にもつたいないほどであったから。

⑤ 其角が去来の句の優れた点を理解していないから。

問二

――線部ア「古翁」とは誰のことですか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **20**。

① 其角

② 道綱

③ 芭蕉

④ 許六

⑤ 西行

総合型選抜  
公募型学校推薦選抜  
英  
語  
数  
学  
生  
物  
物  
理  
化  
学  
学  
国  
語  
一般選抜  
一般選抜英語  
一般選抜日本史  
一般選抜世界史  
一般選抜生物  
一般選抜化学  
一般選抜数学  
一般選抜国語

問三 — 線部2「雪の門ならぬ句」とはどのような句ですか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **21**。

① 雪の門を詠み込んではいけない句。  
② 雪の門ということばが入っていない句。  
③ 雪が降っていない季節の門を詠んだ句。  
④ 雪の門の本質が表現できていない句。  
⑤ 雪が音を立てずに門に降り積もっている句。

問四 — 線部3「この句はじめは、道綱の母の「いかに久しきものとは知る」の和歌より思ひ付き候へども」は、この句が藤原道綱の母の和歌から発想されたことを述べています。次の(1)～(2)の問いに答えなさい。

(1) 藤原道綱の母の和歌の下句「いかに久しきものとは知る」の意味として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **22**。

① 会う約束がどれほど久しぶりのことであったか、覚えていますか。  
② どんなに長い時間が経過してしまったか、私にはよくわかっていません。  
③ 何度試みて無駄に終わったことか、もはや知ることはできません。  
④ 二人で過ごした時間があまりに長すぎたことを、思い知らされました。  
⑤ どれほど長いものであったか、到底あなたにはわからないでしょう。

(2) 藤原道綱の母の和歌と去来句に共通しているのはどのようなところですか。最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **23**。

① あけるまでの時間がどんなに長く感じられるものであったかを詠んでいるところ。  
② 夜が持て余すほど長く、退屈をしのぐために知人に会おうとしているところ。  
③ なんとかして会おうとしたのに、相手が自分の気持ちに気付かなかったところ。  
④ 夜があけるのを二人一緒に今か今かと待ち続けて、疲れ果ててしまったところ。  
⑤ 相手に飽き果てられて、長い間所在なげに一人で過ごす孤独を詠んでいるところ。

問五 — 線部4「歌の魂に落ち候ひて」の意味として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **24**。

① 和歌の持つ不可思議な霊力に神が感応して  
② 本歌のすばらしさに私の魂を奪われてしまつて  
③ 本歌が詠んだ世界から離れることができなかった  
④ 和歌の道の奥深さに触れたような気がして  
⑤ 本歌の精神が見事なほどに句作りに結実して

問六 — 線部イ「なほ」の意味として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **25**。

① さらに  
② ますます  
③ ようやく  
④ やはり  
⑤ そのまま

— 19 —

一般選抜国語

問七 — 線部ウ「かの句」とはA～Cのどの句を指していますか。次の①～③の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **26**。

① A  
② B  
③ C

問八 — 線部5「さびの付きたるやうに存じられて」の意味として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **27**。

① 深い陰影が加わり気が滅入ってしまうように感じて  
② 古めかしい雰囲気醸成されたように思えて  
③ 言葉統括に引掛かりができ滑らかではなく思われて  
④ 余情として閑寂な味わいの情趣が感じられて  
⑤ これ以上動かしようのないほどの完成度と分かって

問九 — 線部エ「a」に入る語として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は **28**。

① べく  
② ましく  
③ ごとく  
④ まほしく  
⑤ がたく

(国語問題 おわり)

— 18 —

169